

部 報

平成17年度 No.51

北海道大学馬術部



◇目次◇

巻頭書	井上 京	2
前主将より	前田 晋也	3
活動報告		5
戦績報告		11
調教報告		22
北旋風号	利根川 正明	
北替号	一色 真明	
北鳳号	前田 晋也	
エルグレイ号	前田 晋也	
北翔号	林 宣隆	
北権号	日野 恵介	
北閃号	一色 真明	
北煌号	利根川 正明	
北選号	前野 伸策	
北凌号離厩特集		47
入厩報告		55
北奏号	一色 真明	
八木正巳氏追悼特集		56
OB 寄稿		63
みんなの思いを乗せて	高野 文彰	
全日本障害馬術大会『観戦記』	黒沢 道雄	
北大水産馬術部活動報告	坂井 慎哉	73
卒部にあたって		75
部員紹介		80
OB 名簿		85
現役部員名簿		96
編集後記		100

※表紙の写真は平成17年の全日に出場した3頭(上から、エルグレイ号、北替号、北翔号)

記録に留めておくべきいくつかのこと（平成17年度）

北大馬術部部长 井上 京

多くの皆様のご支援とご協力によって、懸案だった馬運車が更新されました。2.75tの斜め3頭積みで、新車ではありませんが馬力もあり、ゆとりをもって輸送にあたれるとのことでした。約130名にもものぼるOB・OGの諸姉諸兄より賜ったご寄付、ならびに後援会からいただいた補助により、約200万円の購入費用すべてをまかなうことが出来ました。関係者の皆様に篤くお礼申し上げる次第です。馬運車はさっそく5月から活躍しています。

7月に学務部学生支援課よりうれしい知らせが突然舞い込んできました。工学部名誉教授の落藤 澄（おちふじきよし）先生より、部の振興のためにご寄付を賜りました。奥様が馬がお好きで、北18条に馬場があった頃よりときどき馬の顔を見にお出でだったと伺いました。残念なことに奥様は一昨年お亡くなりになられたのですが、ご遺志により馬術部へ寄付をお届けくださった次第です。奇遇なことに、落藤先生はOBの大場善明様（S36年卒）と幼なじみということも、その後明らかになりました。ご寄付の使途として、現在は露天にさらされている馬繋台に、屋根をつけることで学務部と話を進めています。

大変悲しい出来事もありました。8月3日、八木正巳様（S39年卒）が、日勝峠での交通事故のため亡くなりました。日本馬術連盟理事、北海道乗馬連盟の副会長、理事長として北海道の乗馬界の発展に尽されてこられました。事故当日も、エンデュランスの大会打合せのため札幌より鹿追町へ向かっておられる途中でした。亡くなる直前の馬術大会でお目にかかった折に、これからは学生もエンデュランスへ出てみないかとお誘いいただいたことを思い出します。慎んでご冥福をお祈りいたします。

農学部裏、桑園の駅にほど近いところに演習林の苗圃があります。そこでオンコ（イチイ）の苗を処分されていることを知り、分けてもらうことにしました。馬場の砂が少しでも風で飛ばされないようにと、馬場の南側と西側に移植しました。6月に移植したのは雨不足がたたって失敗してしまいましたが、秋に移植したものはいくつか根付いたようです。18年度も少し分けてもらうことにしています。

本稿の提出が遅れ、部報の発行を大幅に遅らせてしまいました。お詫び申し上げます。年度があらたまって平成18年5月4日に第6代部長半澤道郎先生が、また7月2日には第8代部長の小池壽男先生が、相次いでお亡くなりになりました。これらのことについてまた稿を改めてご報告したいと思います。慎んでご冥福をお祈りいたします。

◇前主将より◇

前田 晋也

昨年は、一昨年同様全日二走3頭、総合1頭出場を始め充実した1年を過ごすことができました。これもひとえに OB の方をはじめとする関係者の皆様のお力添えのおかげだと思います。ありがとうございました。また、昨年は馬運車の買い替えに際しまして、多くの方のご理解・ご協力を賜りました。重ねて御礼申し上げます。非常に使い勝手もよく重宝しております。これを安全に使うって事故なく馬を輸送するよう伝えていくことも大事な役目だと思っています。

最後になりましたが、井上部長、市川前部長をはじめ部にご理解・ご協力いただきましたOBの方々、また部に関わったすべての関係者の方々に感謝したいと思います。これからも北大馬術部をよろしく願いいたします。

後輩へ

<運営面について>

昨年も全日に出場しそれなりの結果は得られたと思いますが、馬術部は依然多くの問題を抱えていると思います。慢性的な部員不足、それに伴う個々の負担増大、収入の減少、また馬匹の高齢化、部員の技術不足、思うようにいかない新馬の育成等さまざまにあると思います。すべてすぐに解決するものではありませんし簡単な問題ではないと思いますが、大事なことは最上級生を中心として全員がこれらの問題を把握し話し合うことではないでしょうか。だれかに任せきりになったり、自分だけの意見で話を進めてしまったりしてはなかなか解決にはつながらないと思います。そしてそのために大事なことは広く考えを求めることだと思います。ドンパ、先輩後輩はもちろん井上部長や OB の方々、他大学の部員や関係者の方に話を聞いたり意見を求めたりしてから、それを自分らで考え理解して取り組むことは非常にいいことではないかと思います。当然そういった意見を聞ける人と多く繋がりを持つということが重要であることは言うまでもありません。そういう広い視点から問題を見て、それを共有して部員全員で取り組むことが解決の近道ではないでしょうか。

<練習について>

普段の練習については何よりもまず基本が大事だと思います。そしてこの基本がきちんとできている人がなかなかいないのが現状だと思います。自分の感覚と客観的な視点(他人の意見やビデオ)の両面から常に自分の乗り方に注意して乗る習慣をつけることが大事だと思います。

しかし、それより大事なことが、毎日練習に参加するということだと思います。もちろん、馬が、です。ここ数年故障などで満足に年間を通じた練習ができないということがたびたび起きています。高齢馬は高齢馬なりに、故障持ちならその程度なりにしっかり判断して運動メニューを組み立てていればこのようなことにはならないはずで、馬がアクシデントで故障したのは致し方ないとして、過剰な運動や不適切な運動での故障は、人の責任であり、それで練習に参加させな

いのは、部員の代表として部の馬を任せられている運動管理者(チーフ)として失格だ、と全員が感じるようにならなければならないと思います。そして根本的にチーフ以外はその馬の運動に関して無関心すぎると思います。部の馬である以上部員全員で考え管理していくという意識を高めていく必要があると思います。

以上、勝手気ままに書きましたが、正直僕はこれらを現役時代にできたとは言い切れません。それだけに後輩のみんなにはこれを反面教師として活かして、もっと楽しくてよりよい部にして、部活を楽しんでもらえたらと思っています。頑張ってください。

中古車と整備

民間車検工場

株式会社 **北大モーターズ**

札幌市北区北18条西5丁目1-36 ☎726-1526

◇活動報告◇

【主将】

林 宣隆

まず初めに、去年5月の新しい馬運車の購入に際して後援会より多くの支援をいただき本当にありがとうございました。

新しい馬運車は3頭積みで旧馬運車よりも大きくパワーもあり、特に道内大会での輸送に大活躍しています。H16年度卒部生により北大の名前の入ったペイントも施され、ますますすばらしいものとなりました。これからも大切に、そして安全運転で馬運車を利用していききたいと思います。本当にありがとうございました。



現在部員は3年生4人、2年生3人、1年生7人の14人で馬匹は以下の10頭です。

二走馬・・・北旋風(16)、北替(13)、エルグレイ(17)、北翔(16)

総合馬・・・北旋風(16)、北替(13)、北鳳(10)、北閃(9)

練習馬・・・北椎(11)

新馬・・・北遥(8)、北煌(6)、北奏(5)

・馬匹について

競技馬の年齢が徐々に上がる一方、新馬が思うように育っていないという最近の課題はまだまだ解消していません。これは、結果の残すことのできる高齢馬に頼って、新馬の育成が遅れてしまったことが原因にあげられます。これらの高齢馬は、いつリタイアしてもおかしくない状態なため、新馬の育成は最大の急務だと思います。この部員数で新馬3頭は多いですが今やらなければならぬと思います。

・部員について

部員の人数に関しても相変わらず少ない状況です。理想としては馬の頭数×2人の部員数が必要であり、馬の担当も2頭乗りではなく1人は1頭に集中すべきだと思います。しかし、現状はそうではありません。人数が少なく苦しい状況は続いています。その分、どれだけ各々が部活に対して主体的に活動できるかが今は大切だと思います。上級生と下級生は基本的に平等であり、誰もが馬術部になくてはならない存在であるという気持ちを常にもって活動してもらいたいと思います。

・練習について

特に「1年生に対する指導方針に関して一貫したものがない」というのが課題でした。指導方針の確立も当然必要ですが、まずは下級生も含めた部員全員がどのような練習をどのような順序で、いつまでにどれくらいのレベルを目標として1年生に教えていくかの共通の理解が必要だと思います。そのためには全員の話し合いが必要でありその方針を統一することが第一歩だと思います。

2年生以上の部員に関しては1年間の通した目標と月ごとの目標を掲げることにしました。誰がどのような目標を持って乗っているのか部員全体が理解できることにより、お互いの練習に興味をもち、高めていけると思います。

各馬の調教に関しても同様で1年間と1ヶ月の目標を立ててもらいました。お互いが監視し合い、時にはチーフも違う馬に乗って他の馬の調子や練習メニューの議論ができる状態になってほしいと思います。いつ誰がどの馬に乗り替わっても試合に出れるレベルが目標です。これは賞与馬戦の強化にもつながります。

今年も全日の権利を狙うことのできる人馬は揃っています。まずは二走の、そして総合でも団体の権利を獲りに行きます。高齢な馬や怪我もちの馬が多いため、いかに健康状態を保ちどれだけ北日にベストな状態で挑めるかが重要だと思います。そして、どれだけ部員がチーム一丸となって試合に臨めるか、最後の結果はそこにかかっていると思います。

【副将】

住江 康晴

今年の馬術部の目標は全日二走・総合で団体を組んで出場することである。これは並大抵のことではない。これを實現するためには今まで以上に馬術に没頭しなければならないだろう。ところが部員たちは馬を養うためにバイトをし、大会では運営を手伝い、本業である勉強にも励まなければならない、一筋縄にはいかないのが現状だ。そこで、色々な面で効率が求められるわけだが、効率という名目で易きに流れて馬が不幸な思いをするようなことがあってはならない。大切なのは何が必要で何が無駄なのかを見極める、なるべく客観的な広い視野だと思う。そして、部全体で目標、問題点や反省点、課題などを共有し、一丸となって目標の達成に向かっていきたい。

【主務】

久保 裕道

主務の仕事は、馬術部施設の管理およびそれらに関する学生部とのパイプ役となること、北大主管の大会の運営などがあげられます。

まず施設に関してはポンプの故障・ポンプの工事に伴う水道の詰まりなど問題が多々発生しましたが学生部の協力により現在回復しました。しかし大きな問題はこれからも起こるであろうし現在でも微々たる問題は多く抱えているのでこれからも窓口としてできることをしていかなければいけないと思います。

大会運営に関しては部員数の減少により大きな負担となっているのが現状です。この件に関しては以前から言われているように少しでも負担が減るようにはたらしかけていくしかありません。

施設管理・大会運営・その他庶務をこなし部活動が滞りなく進むように対処していこうと思います。

【馬匹】

関田 愛子

今年は疝痛や風邪は非常に少なく、それらにより重篤に至ることはほとんどありませんでした。新馬の去勢が三回ありましたが、その際も、腫れがなかなかひかなかったり、腫れがお腹に移ったりしたものの、40℃を超える熱を出すことはありませんでした。

一方、四肢や背中、肩などの運動器の故障が非常に多く、破行により休ませる馬が目立ちました。最も多かったのは、練習中や放牧中の怪我が原因であり、傷口から感染症を起こして肢が腫れるものでした。その度に抗生物質もしくは消炎剤で対処したため、大量の薬品を消費してしまいました。放牧は徐々に落ち着き怪我也減ってきましたが、雪解けの時期は放牧を中止せざるをえないので、長期間あいて春先久しぶりに出すときには特に注意が必要です。

また、新馬においては背中を痛めたり、以前に痛めたことのある肢を再び痛めたりすることもありました。若い馬は筋肉が未発達であるのに加えて、過去に屈腱炎などの病歴をもつ場合もあり、それらを考慮して慎重に運動を調整しなくてはならないのに、それをせずに無計画な運動を続けていたことは反省しなくてはなりません。今後同じことを繰り返さないためにも、計画的な運動量、運動内容の調整が必要です。また、水冷や氷冷、厩舎肢巻きを有効に使うて日々のケアに努めるよう呼びかけていこうと思います。

最後になってしまいましたが、獣医関係の方々には大変お世話になりました。どうもありがとうございました。今後ご指導のほどよろしく願い致します。

【飼料】

建部 真宏

今年度の飼料報告をします。まず馬に与えている飼料内容についてですが、現在馬に与えている主な飼料は燕麦、ふすま、ヘイキューブ、並塩、パワーサプリ25の五種類です。運動をした馬には燕麦約1kg、ふすま約0,3kg、ヘイキューブ約0,8kg、パワーサプリ25約0,1kg、並塩約大匙2杯を与えています。またヘイキューブはお湯でふやかして与えています。これらの飼料は明治飼料から購入しています。

次に乾草は各馬約1,5kgを1日4回、朝昼夕夜に与えています。乾草と麦稈は畜大OB の長岡さんからバイト代としていただく他、山本ファームから購入しています。ポロ山の回収については4月と11月に北大農場に引き取ってもらっています。

来年度も、部外の方々への感謝の気持ちを忘れず、そして馬が毎日口にする飼料の質に細心の注意をはらいながら取り組んでいきたいと思えます。

【後援会】

谷山 直美

現役部員とOBの交流の場として、年4回のコンパ、OB戦、初乗りを行ったり、戦績や部報を送らせていただいたりしています。

北大馬術部OBは全国に散らばっておられ、全ての方と交流を持つことはできていませんが、なるべく多くの方と交流を持ちたいと思っております。H6年卒の倉本さんが開設して下さった北海道大学馬術部ホームページ(<http://www4.big.or.jp/~nono/hokudai/>)でも皆様と交流を図ることができますので、是非掲示板にご参加ください。また、住所等に変更がありましたらご連絡ください。Eメールでのご連絡も行っております。郵送するよりも早く、また、経費削減にもなるので、Eメールアドレスをお持ちの方は、ご連絡くださいますようお願いいたします。ご連絡は部室(TEL/FAX 011-737-1626)または北大馬術部のメールアドレス(hokudaibajutubu@hotmail.com)にお願いします。

最後になりましたが、OBの皆様から寄付をいただき、ありがとうございました。特にこのたびは、馬運車購入支援をお願いしたところ、全国のOBの方々から多大なる賛同、ご協力をいただき、篤く御礼申し上げます。

札幌へ起こしの際は是非馬術部にお立ち寄りください。

【会計】

一色 真明

はじめに、今年、後援会員の皆様、後援会からの全額寄付により新しく馬運車を購入させて頂いたことを、心より御礼申し上げます。新しい馬運車は北大モータース様のご協力をいただき、1,972,150 円で購入いたしました。その費用を後援会員の皆様より馬運車基金というかたちで1,182,240 円、後援会の方より不足分 789,910 円を援助して頂きました。まだ、所々改良していく点は残ってはいるのですが、少人数で3頭積み込める上(前馬運車は5人で2頭積み)、荷物も十分に積むことのできる非常にすばらしい馬運車です。先頭に立ち基金を募って頂いた大場善明様を始め東京OB会の皆様、札幌後援会の皆様、本当にありがとうございました。大事に使わせて頂きます。

次に、一般の収支についてですが、今年は1,518,497 円の黒字となりました。一番の理由は馬運車の買い換えによる車両維持費の大幅減少だと思われます。他の要因としては、部費の5,000 円(昨年までは2500 円)への増額、今年の北日学がノーザンホースパークで開催されたこと、飼料代を昨年末に先払いしていたこと等が挙げられます。早速、新馬運車の効果が現れていると思われます。

また、OBの方よりご指摘を受け、今年より会計報告に繰越金をもうけ、会計内容も今までの単式簿記から複式簿記への移行を図っております。

今年は黒字ではありませんでしたが、部員の減少、学業優先等の理由より、今後の財政状況には不安が残ります。今後とも後援会員の皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

モモセライディングファーム

札幌市清田区美しが丘3条3丁目

TEL 881-0470

平成17年(1月～12月) 馬術部会計報告

収入

部費	912,500
寄付	103,100
学馬連補助	960,000
学校・体育会助成金	446,246
半澤杯収益	274,000
道大会役務費	1,205,861
道馬連余剰金	150,000
輸送補助金	47,800
モモセバイト	506,200
競馬場バイト	1,879,757
鷺田商店バイト	22,000
松永獣医師バイト	150,000
セレクトセールバイト	72,000
チャンピオンファームバイト	209,154
道馬連バイト	48,000
体温計立替分	7,800
薬品立替分	177,690
その他バイト	233,458
計	7,405,566

支出

馬備	9,988
飼糧	1,139,062
車輜	749,826
交通	910,835
馬匹	1,037,340
作業	94,275
薬品	709,753
電話	55,682
企画	21,752
衛生	8,554
後援会	74,982
ビデオ	30,130
大会関係	879,412
記録	1,517
雑費	163,961
繰越金	1,518,497
計	7,405,566

◇戦績報告◇

●対東北大学定期対抗戦 (於 東北大学 4月9日)

参加選手 池谷 (2) 工藤 (2) 谷山 (2)
優勝 東北大学・北海道大学

●第44回国立七大学総合体育大会馬術競技会 (於 九州大学 4月30日, 5月1日)

優勝 九州大学
準優勝 京都大学
3位 名古屋大学
4位 北海道大学
5位 東京大学
6位 東北大学
最優秀選手 新宅 (九州大学)
優秀選手 一色 (北海道大学)
内田 (京都大学)

●第33回半澤杯記念馬術大会 (於 北海道大学 5月3, 4日)

☆第2課目競技 (市川杯) 得点率
1位 一色 ハ'ワフショット 北大 (3) 55.30
2位 池谷 北鳳 北大 (2) 48.80
3位 大那 シーベスト 北大 (2) 48.60

☆第3課目競技 (齋藤杯) 得点率
1位 鈴木 テリーフ'ラック フォレイト'インク'ファーム 55.60
2位 歌川 ロック'キング'ダム J R A札幌競馬場 52.80
3位 日野 シーベスト 北大 (4) 50.90
7位 住江 北替 北大 (2) 40.70

☆複合馬術競技 (太秦杯)				馬場減点	障害減点	総減点
1位	歌川	ダ'イミック'ハート	J R A札幌競馬場	70	8	78
2位	藤本	ブ'ラック'ジーンズ	酪農学園大学	73	10	83
3位	荒川	イブ'ジ'コンドル	酪農学園大学	85	0	85
5位	一色	北替	北大 (3)	75	18	93
Open	前田	北鳳	北大 (4)	85	—	—

☆障害飛越競技 100cmクラス (河田杯)				減点	J.O.タイム
1位	伊藤	ル'エリエ	ライテ'インク'ファーム・フセ	0	39.27
2位	鈴木	テリーフ'ラック	フォレイト'インク'ファーム	0	42.12
3位	鈴木	テリーフ'ラック	フォレイト'インク'ファーム	1	
6位	前田	北鳳	北大 (4)	4	

☆障害飛越競技 90cmクラス (小池杯)				減点	タイム
1位	松井	ダイキマーンヤル	S46卒	0	61.82
2位	関田	北替	北大 (3)	0	67.58
3位	鈴木	フアント'リロハ'リー	J R A札幌競馬場	0	70.01
落馬E	日野	シーベスト	北大 (4)		

☆障害飛越競技 70cmクラス				減点	タイム
1位	工藤	シーベスト	北大 (2)	0	75.11
2位	田中	ヤマノファントム	酪農学園大学	0	72.11
3位	一色	ハ'ワフショット	北大 (3)	0	71.52
6位	谷山	シーベスト	北大 (2)	8	90.25

●三大学定期戦（於 帯広畜産大学 5月15日）

参加選手	池谷（2）	工藤（2）	住江（2）
優勝	帯広畜産大学		
準優勝	酪農学園大学		
3位	北海道大学		

●第19回北海道新緑馬術大会（於 ノーザンホースパーク 5月20日～22日）

☆一般第2課目馬場馬術競技Ⅰ				得点率
1位	一色	ハワフショット	北大（3）	47.80
2位	吉田	柏鳳	帯広畜産大学	42.20
3位	高橋	柏鳳	帯広畜産大学	36.70

☆一般第3課目馬場馬術競技Ⅰ				得点率
1位	堂下	キリイーク	乗馬倶楽部メインフィーズ*	53.80
2位	白須	柏朱穂	帯広畜産大学	46.00
3位	小阪	北替	北大（4）	45.20

☆一般ツースター総合馬場馬術競技AⅠ				得点率
1位	玉井	零	帯広畜産大学	56.30
2位	藤本	ブラックシ-ンズ*	酪農学園大学	53.20
3位	百瀬	キングヒリュウ	モッセライディングファーム	52.70
6位	一色	北替	北大（3）	49.20

☆スピードアンドハンディネス中障害飛越競技C 一般の部				成績時間
1位	川北	イースターラネージュ	ノーザンホースパーク	60.39
2位	里深	トウカリーク	ノーザンホースパーク	60.89
3位	春田	マチネココン	モッセライディングファーム	64.47
9位	松井	岩竜	S46卒	92.28

☆標準小障害飛越競技BⅠ				減点	タイム
1位	高野	ルカエリエ	ライディングファーム・7セ	0	51.64
2位	高野	ジヤック	ライディングファーム・7セ	0	51.77
3位	百瀬	キングヒリュウ	モッセライディングファーム	0	54.38
8位	松井	タイキマシヤル	S46卒	4	58.07

☆一般第3課目馬場馬術競技Ⅱ				得点率
1位	鈴木	テリブラック	モッセライディングファーム	53.80
2位	西本	エヘレストクワイア	酪農学園大学	50.40
3位	関田	北替	北大（3）	48.30

☆標準中障害飛越競技D 一般の部				減点	J.Oタイム
1位	鈴木	テリブラック	モッセライディングファーム	0	47.27
2位	春田	マチネココン	モッセライディングファーム	0	52.16
3位	貞重	イブジコンドル	酪農学園大学	0	55.87
4位	林	北翔	北大（3）	0	74.01
12位	一色	北替	北大（3）	5	
16位	松井	岩竜	S46卒	8	

☆標準小障害飛越競技A 一般の部				減点	J.O.タイム
1位	貞重	ブラックシ-ンズ*	酪農学園大学	0	43.81
2位	村上	ミスリエル	北星乗馬クラブ	0	44.99
3位	久保	北替	北大（3）	0	45.19
12位	前田	北鳳	北大（4）	0	64.84

☆標準小障害飛越競技 B II				減点	タイム
1位	高野	ジヤック	ライディングファーム・フセ	0	49.16
2位	松井	タイキマシヤル	モセライディングファーム(S.46卒)	0	53.90
3位	日野	シーベスト	北大(4)	0	57.97
☆初心者障害飛越競技 B II				減点	タイム
1位	岡本	パットルマーク	北星乗馬クラブ	0	60.31
2位	住江	北風	北大(2)	0	57.77
☆標準小障害飛越競技 C II				減点	タイム
1位	一色	パッドルショット	北大(3)	0	54.07
2位	中川	ウリエ	ライディングファーム・フセ	0	58.97
3位	中川	駿春	酪農学園大学	0	59.03
☆初心者障害飛越競技 C II				減点	タイム
1位	池谷	シーベスト	北大(2)	0	51.52

●第40回北海道春季馬術大会(於 ノーザンホースパーク 6月17日～19日)

☆一般第2課目馬場馬術競技 I				得点率
1位	五十嵐	テイムダソカソ	ライディングヒルズ 静内	56.471
2位	増子	テイムダソカソ	ライディングヒルズ 静内	54.314
3位	本間	テイムダソカソ	ライディングヒルズ 静内	51.569
4位	谷山	シーベスト	北大(2)	46.275
☆一般第3課目馬場馬術競技 I				得点率
1位	馬場	ウイラネ	オフホースコミュニ	58.519
2位	瀬川	パッドルマイラー	オフホースコミュニ	56.420
3位	竹之内	パッドルマイラー	オフホースコミュニ	56.296
7位	関田	北慧	北大(3)	53.210
危険走行 E 小阪				北凌 北大(4)
☆ツースター馬場馬術競技 I				得点率
1位	山下	柏爵	帯広畜産大学	55.10
2位	山下	柏剣	帯広畜産大学	54.30
3位	加藤	ナショナルトル	にいかつぶおしり乗馬クラブ	54.30
4位	一色	北慧	北大(3)	53.10
☆スピードアンドハンディネス中障害飛越競技 C (1) 一般の部				成績時間
1位	加藤	ナショナルトル	にいかつぶおしり乗馬クラブ	70.64
2位	近藤	バルパス	コントウファームライディングジール	72.96
3位	川北	イースタートラネージュ	ノーザンホースパーク	83.93
6位	林	北翔	北大(3)	96.40
☆スピードアンドハンディネス中障害飛越競技 D (1) 一般の部				成績時間
1位	鈴木	テリブラック	モセライディングファーム	82.17
2位	相田	モンテウエルテ	モセライディングファーム	84.51
3位	小野	ブランドダソ	乗馬倶楽部メインフィーズ	87.95
4位	高野	グイクトール	S41卒	88.51
2反 E	松井	岩竜	モセライディングファーム	
☆スピードアンドハンディネス小障害飛越競技 A (1) 一般の部				成績時間
1位	村上	ミスリエル	北星乗馬クラブ	81.32
2位	大槌	柏朱鷄	帯広畜産大学	87.14
3位	稲原	ジヨタンヘム	静内農業高校	91.38
7位	久保	北風	北大(3)	101.76
9位	松井	タイキマシヤル	S46卒	111.75

☆標準小障害飛越競技B I				減点	J.O.タイム
1位	高野	カルパトス	乗馬クラブテネラ	0	55.31
2位	田口	ワンボ イント	ノーザンホースパーク	0	62.00
3位	有藤	ザワロウ	十勝柏友会乗馬クラブ	0	62.36
18位	一色	バワフッシュョット	北大(3)	10	

☆一般第2 課目馬場馬術競技II				得点率
1位	小林	ポリオン	十勝柏友会乗馬クラブ	55.490
2位	松田	ユージン	旭川乗馬倶楽部	53.725
3位	菅	ユージン	旭川乗馬倶楽部	53.529
4位	一色	バワフッシュョット	北大(3)	53.137
5位	大那	北凌	北大(2)	50.784
7位	工藤	北凌	北大(2)	49.412

☆標準小障害飛越競技D (1) 一般の部				減点	J.O.タイム
1位	川北	イースターラネージュ	ノーザンホースパーク	0	40.10
2位	小野	ブランドタンス	乗馬倶楽部メインフィールズ	0	45.76
3位	相田	モンテガエルテ	モゼライテイングファーム	0	51.35
5位	高野	クイクトワール	S 4 1 卒	4	
8位	前田	北鳳	北大(4)	4	
15位	一色	北琴	北大(4)	12	

☆標準小障害飛越競技A (1) 一般の部				減点	J.O.タイム
1位	高野	カルパトス	乗馬クラブテネラ	0	45.51
2位	山内	柏嶺	帯広畜産大学	0	50.25
3位	相田	モンテガエルテ	モゼライテイングファーム	0	54.24
8位	松井	タイキマージヤル	S 4 1 卒	4	
2反E	日野	シーベスト	北大(4)		

☆標準小障害飛越競技B II				減点	タイム
1位	小島	ザワロウ	十勝柏友会乗馬クラブ	0	70.53
2位	住江	シーベスト	北大(2)	0	110.36

☆初心者障害飛越競技B II				減点	タイム
1位	藤原	メイヤ	ライテイングヒルズ 静内	0	60.47
2位	一色	バワフッシュョット	北大(3)	0	77.00
3位	神林	咲良	酪農学園大学	0	76.01

●第77回北日本学生馬術選手権大会(於 岩手大学 7月3日)

参加選手 久保(3) 日野(4)

☆予選				得点率
1位	八幡		東北大学	50.91
2位	赤澤	ラムジエット	岩手大学	50.76
3位	日野		北大(4)	48.48
1位	山下		帯広畜産大学	52.73
2位	藤本	トホートツブ	酪農学園大学	52.58
3位	久保		北大(3)	50.30

●第41回北日本学生馬術女子選手権大会(於 岩手大学 7月3日)

参加選手 小阪(4) 関田(3)

☆予選				得点率
1位	河合		帯広畜産大学	49.24
2位	関田	パル	北大(3)	47.58
3位	小阪		北大(4)	44.55
4位	藤原		北里大学	40.91

☆準決勝				得点率
1位	河合		帯広畜産大学	53.33
2位	菊地	アッパ'ルリハ'ー	東北学院大学	51.52
3位	草薨		東北学院大学	49.24
4位	関田		北大(3)	46.67

●第30回北海道馬術大会(於 ノーザンホースパーク 7月15日~17日)

☆一般第3課目馬場馬術競技I				得点率
1位	菅野	ワソオ'サ'ロート'	JRA日高育成牧場	59.00
2位	山下	テマク'イン	JRA日高育成牧場	57.70
3位	森下	バン'ソ'キン'バイ	北星乗馬クラブ'	57.40
7位	住江	シー'ベ'スト	北大(2)	52.10

☆一般ソースター総合馬術馬場馬術競技I				得点率
1位	一色	北磐	北大(3)	57.30
2位	百瀬	ペ'アン'バ'ガ'サ	モセ'ライ'イ'ング'ファーム	57.30
3位	松浦	隼'春	酪農学園大学	53.50
10位	日野	シー'ベ'スト	北大(4)	48.30
13位	前田	北風	北大(4)	43.90

☆スピードアンドハンディネス中障害飛越競技C 一般の部				成績時間
1位	岩坪	モン'テ'ク'エ'ル'テ'	モセ'ライ'イ'ング'ファーム	85.06
2位	川北	イ'ス'タ'ート'ラ'ネ'ジ'ュ	ノー'ザ'ン'ホ'ース'パ'ーク	86.61
3位	鈴木	テ'リ'ー'フ'ラ'ック	モセ'ライ'イ'ング'ファーム	95.24
5位	一色	北磐	北大(3)	100.87

☆スピードアンドハンディネス中障害飛越競技D 一般の部				成績時間
1位	阿部	メ'ト'ウ'ク'リ'ク	ノー'ザ'ン'ホ'ース'パ'ーク	68.88
2位	相田	モン'テ'ク'エ'ル'テ'	モセ'ライ'イ'ング'ファーム	81.57
3位	高野	ウ'イ'ク'ト'ワ'ール	S41卒	81.89

☆スピードアンドハンディネス小障害飛越競技A 一般の部				成績時間
1位	宮竹	リ'ト'キ'ン'ク'ダ'ム	帯広農業高校	74.97
2位	高野	カ'ル'バ'ト'ス	S41卒	75.18
3位	山内	柏'朱'鶴	帯広畜産大学	81.04

☆一般第2課目馬場馬術競技II				得点率
1位	一色	バ'ワ'フ'ル'シ'ョ'ット	北大(3)	56.90
2位	木部	ヤマ'フ'ラ'ント'ム	酪農学園大学	54.90
3位	遠藤	スピ'リ'ツ'ツ	十勝柏友会乗馬クラブ'	47.50

☆標準中障害飛越競技C 一般の部				減点	タイム
1位	一色	北磐	北大(3)	2	100.83
2位	山下	柏'爵	帯広畜産大学	8	81.27
3位	福中	エ'ク'ス'オー	十勝柏友会乗馬クラブ'	8	84.54
6位	林	北'翔	北大(3)	12	87.55
12位	利根川	北'旋'風	北大(4)	24	87.02

☆標準中障害飛越競技D 一般の部				減点	J.O.タイム
1位	川北	フ'ァ'ン'キ'ー'ハ'ブ'ル	乗馬倶楽部'メイン'フ'ィ'ール'ズ'	0	32.10
2位	川北	イ'ス'タ'ート'ラ'ネ'ジ'ュ	ノー'ザ'ン'ホ'ース'パ'ーク	0	33.72
3位	前田	エ'ル'ク'レ'イ	北大(4)	0	37.71
5位	高野	ウ'イ'ク'ト'ワ'ール	S41卒	4	
2反E	前田	北'風	北大(4)		

☆標準小障害飛越競技A 一般の部				減点	J.O.タイム
1位	藤田	オゾン	十勝柏友会乗馬クラブ	0	36.17
2位	相田	モンテグ・エルテ	モゼライテ・インク・ファーム	0	37.08
3位	松井	タイマーシヤル	モゼライテ・インク・ファーム	0	40.01
5位	関田	北風	北大(3)	0	49.84
10位	高野	カルパトス	S41卒	6	

☆標準小障害飛越競技BⅡ				減点	タイム
1位	白須	レナ	コトウファームライテ・インク・シール	0	82.49
2位	宮竹	ラナスⅡ	帯広農業高校	0	104.54
3位	一色	パワフルショット	北大(3)	4	79.56
2反E	日野	シーベスト	北大(4)		

☆初心者障害飛越競技BⅡ				減点	タイム
1位	池谷	パワフルショット	北大(2)	0	74.36
2位	工藤	シーベスト	北大(2)	0	101.42

●第41回北日本学生馬術大会(於 ノーザンホースパーク 8月4～8日)

☆学生賞典障害飛越競技				一走目減点	二走目減点	総減点
1位	石原	ルンファー	東北学院大学	0	4	4
2位	森	柏嶺	帯広畜産大学	4	4	8
3位	前田	エルグレイ	北大(4)	4	4	8
4位	山下	柏爵	帯広畜産大学	0	12	12
5位	松田	柏嵐	帯広畜産大学	8	4	12
6位	玉井	零	帯広畜産大学	4	12	16
7位	菊地	パワーステイション	東北学院大学	8	12	20
8位	林	北翔	北大(3)	17	4	21
9位	川上	ユウパタ	酪農学園大学	24	5	29
10位	一色	北彗	北大(3)	12	17	29
11位	税所	柏海	帯広畜産大学	16	20	36
12位	高橋	ウラン	岩手大学	40	28	68
13位	高橋	エペレストクライマ	酪農学園大学	57	54	111
E	利根川	北旋風	北大(4)	落馬E	—	—

☆学生賞典総合馬術競技				調教減点	耐久減点	余力減点	総減点
1位	川上	ユウパタ	酪農学園大学	77	0.0	0	77.0
2位	森	柏嶺	帯広畜産大学	74	0.0	8	82.0
3位	一色	北彗	北大(3)	69	14.8	4	87.8
4位	玉井	柏劉	帯広畜産大学	69	0.8	20	89.8
5位	松田	柏嵐	帯広畜産大学	75	0.0	28	103.0
6位	清宮	チャレンジ8	酪農学園大学	73	34.8	4	111.8
7位	税所	柏海	帯広畜産大学	66	0.0	46	112.0
8位	渡邊	ウメニキ	酪農学園大学	73	36.0	12	121.0
12位	利根川	北旋風	北大(4)	86	10.8	59	155.8
E	前田	北風	北大(4)	76	5反E	ベル前E	—
Open	日野	シーベスト	北大(4)	82	—	—	—
Open	一色	パワフルショット	北大(3)	—	—	3反E	—

☆第3課目馬場馬術競技A				得点率
1位	土岐	イテタ・イユート	弘前大学	58.1
2位	浅野	イテタ・イユート	弘前大学	57.0
3位	一杉	遠宝	東北大学	57.0
7位	一色	パワフルショット	北大(3)	48.9

☆小障害飛越競技A				減点	J.O.タイム
1位	神林	咲良	酪農学園大学	0	34.30
2位	山内	柏嶺	帯広畜産大学	0	35.77
3位	山崎	ヘルダントニー	弘前大学	0	38.33
8位	日野	シベスタ	北大(4)	1	
13位	住江	北琴	北大(2)	10	
14位	池谷	北鳳	北大(2)	13	

☆小障害飛越競技B				減点	タイム
1位	久保	ハワフショット	北大(3)	0	55.87
2位	佐藤	メイイク	福島大学	0	57.72
3位	高橋	シムートップ	弘前大学	0	59.42
7位	工藤	シベスタ	北大(2)	0	73.32
8位	一色	ハワフショット	北大(3)	1	78.06
3反E	谷山	シベスタ	北大(2)		

●第51回北海道体育大会兼第60回国民体育大会馬術競技北海道ブロック大会
(於 ノーザンホースパーク 8月20、21日)

☆スピードアンドハンディネス中障害飛越競技D(1) 一般の部				成績時間
1位	春田	マキナコン	モセライティングファーム	80.51
2位	高野	ウイクトワール	S41卒	83.43
3位	相田	モンテカエルト	モセライティングファーム	84.45

☆一般第3課目馬場馬術競技I				得点率
1位	竹之内	バツソングマイラー	オーフホースコミュニケーション	55.309
2位	岩野	アレジヤボン	ノーザンホースパーク	51.975
3位	一色	ハワフショット	北大(3)	51.111

☆標準小障害飛越競技A I				減点	J.O.タイム
1位	森下	バソフキンバイ	札幌乗馬倶楽部	0	43.95
2位	松井	タイキマシヤル	モセライティングファーム	0	46.92
3位	渡辺	リスムアース	帯広農業高校	0	48.62
4位	高野	カハトス	乗馬クラブチキラー	0	62.13
6位	一色	ハワフショット	北大(3)	0	2反E
2反E	日野	シベスタ	北大(4)		

☆標準小障害飛越競技A II				減点	タイム
1位	鶴見	バニラシェイク	札幌乗馬クラブ	0	63.81
2位	松田	ティビークロー	旭川乗馬倶楽部	4	67.71
3位	小野	ノースクイン	乗馬倶楽部メインフィールズ	8	99.86
5位	関田	シベスタ	北大(3)	10	90.45

☆初心者障害飛越競技C I				減点	タイム
1位	小野寺	リスムアース	帯広農業高校	0	67.04
2位	山川	ハワフショット	北大(1)	0	66.45
3位	谷口	ハワフショット	北大(1)	0	66.35

☆一般第3課目馬場馬術競技I				得点率
1位	森下	バソフキンバイ	札幌乗馬倶楽部	54.444
2位	高桑	柏朱鷲	帯広畜産大学	51.605
3位	伊東	ボレアス	モセライティングファーム	47.160
4位	池谷	北凌	北大(2)	43.951
6位	工藤	北凌	北大(2)	39.506

☆標準中障害飛越競技D (1) 一般の部				減点	J.O.タイム
1位	玉井	柏爵	帯広畜産大学	0	39.20
2位	高野	グイクトワール	S41卒	0	40.53
3位	岩坪	ノースライト	モセライディングファーム	0	44.22

☆標準小障害飛越競技A II				減点	J.O.タイム
1位	高野	カバト・ス	S41卒	0	39.44
2位	小林	トレンク・タム	帯広農業高校	0	40.64
3位	会田	ミスリエル	北星乗馬クラブ	0	41.67
4位	松井	タイキマーンヤル	S46卒	0	41.92

●第19回北海道秋季馬術大会 (於 ノーザンホースパーク 9月16～18日)

☆標準中障害飛越競技C 一般の部				減点	タイム
1位	川北	ワトキス	ノーザンホースパーク	0	71.76
2位	岩坪	モンテウ・エルテ	モセライディングファーム	4	78.90
3位	楠木	ジュテイル	ノーザンホースパーク	5	87.19
4位	前田	エルク・レイ	北大(4)	8	83.55
2反E	一色	北慧	北大(3)		

☆標準中障害飛越競技D 一般の部				減点	J.O.タイム
1位	川北	イースタート・ラネージュ	ノーザンホースパーク	0	37.84
2位	藤本	ブ・ラックシ・ーンズ	酪農学園大学	0	41.04
3位	小池	柏嶺	帯広畜産大学	0	75.63
10位	住江	北慧	北大(2)	7	
15位	林	北鳳	北大(3)	12	

☆標準小障害飛越競技A 一般の部				減点	J.O.タイム
1位	川久保	レオン	十勝柏友会乗馬クラブ	0	40.19
2位	相田	モンテウ・エルテ	モセライディングファーム	0	42.14
3位	松井	タイキマーンヤル	S46卒	0	44.90

☆新馬障害飛越競技 (ノーザンファイナルチャンピオン戦 第1走)				減点	タイム
1位	住川	マジ・ロジ・ヤンゼン	北星乗馬クラブ	0	79.33
2位	玉井	柏蒼	帯広畜産大学	8	80.75
3位	一色	バ・ワルドショット	北大(3)	12	99.82

☆初心者障害飛越競技B I				減点	タイム
1位	谷口	北鳳	北大(1)	0	87.83
2位	上林	ルウ・エリエ	ライディングファーム・フセ	0	85.41
3位	宮本	バ・ワルドショット	北大(1)	0	83.22
4位	建部	バ・ワルドショット	北大(1)	4	84.41

☆一般第3課目馬場馬術競技II				得点率
1位	竹之内	バ・ツシク・マイラー	オーフルホースコミュニティ	58.1
2位	川畑	ウメシキ	酪農学園大学	57.5
3位	森下	バンブ・キンハイ	札幌乗馬倶楽部	55.8
6位	一色	バ・ワルドショット	北大(3)	51.5
10位	林	北鳳	北大(3)	48.9

☆新馬障害飛越競技 (ノーザンファイナルチャンピオン戦 第2走)				減点	タイム
1位	住川	マジ・ロジ・ヤンゼン	北星乗馬クラブ	4	76.81
2位	緒方	シミノゴ・ジー・ヤス	ライディングファーム・フセ	9	85.15
2反E	一色	バ・ワルドショット	北大(3)		

☆標準小障害飛越競技BⅡ				減点	タイム
1位	松井	タイキマシヤル	モモセライディングファーム(S.46卒)	0	57.74
2位	鶴見	パニラシェイク	札幌乗馬倶楽部	0	58.43
3位	中垣	ジヤック	ライディングファーム・フセ	0	59.73
11位	関田	シーベスト	北大(3)	4	94.28

☆初心者障害飛越競技CⅡ				減点	タイム
1位	谷山	シーベスト	北大(2)	0	81.86
2位	山川	シーベスト	北大(1)	0	81.57

●モモセダービー (於 モモセライディングファーム 10月8日)

☆90cmクラス 北大の部				減点	タイム
1位	池谷	マチカネコン	北大(2)	0	97.90
2位	住江	マチカネコン	北大(2)	0	104.10
3位	谷口	キングビリュウ	北大(1)	4	100.28
4位	建部	ヘアンパガサス	北大(1)	4	127.08
5位	山川	ノスタルキ	北大(1)	4	138.71
6位	宮本	ノスタルキ	北大(1)	8	159.69

☆60cmクラス 北大の部				減点	タイム
1位	谷山	ヘアンパガサス	北大(2)	0	85.82
2位	沖	ヘアンパガサス	北大(1)	0	87.25
3位	吉村	キングビリュウ	北大(1)	4	92.27
4位	山中	キングビリュウ	北大(1)	4	98.27

●OB戦 (於 北海道大学 10月9日)

☆120cmクラス				減点	タイム
1位	一色	北鷲	北大(3)	0	66.41
2位	前田	エダグレイ	北大(4)	0	68.00

☆110cmクラス				減点	タイム
1位	林	北風	北大(3)	0	67.00
2位	一色	パワフルショット	北大(3)	0	81.06
3位	住江	北鷲	北大(2)	0	87.35
落馬E	久保	北旋風	北大(3)		

☆100cmクラス				減点	タイム
1位	建部	北風	北大(1)	0	63.85
2位	山川	パワフルショット	北大(1)	4	73.29

☆90cmクラス				減点	タイム
1位	関田	シーベスト	北大(3)	0	66.23
2位	宮本	北旋風	北大(1)	4	89.81
落馬E	谷山	パワフルショット	北大(2)		

☆クロスバー競技				減点	タイム
1位	山中	シーベスト	北大(1)	0	66.69
2位	沖	北風	北大(1)	0	66.44
3位	谷口	イタスカンション	北大(1)	0	68.23
4位	吉村	シーベスト	北大(1)	0	69.30
5位	松井	シーベスト	S46卒	0	62.74
6位	野中	北旋風	S59卒	0	73.16
7位	池谷	イタスカンション	北大(2)	0	60.32
8位	荒瀬	北風	H6卒	0	73.97

☆リレー競技				タイム
1位	建部	北凌	北大(1)	5'38"33
	谷口	ス [*] ショウク [*] ン	北大(1)	
	山川	エ [*] ク [*] レイ	北大(1)	
2位	西村	北凌	H7卒	5'40"09
	荒瀬	ス [*] ショウク [*] ン	H6卒	
	野中	エ [*] ク [*] レイ	S59卒	
3位	武井	北凌	H16卒	5'58"41
	竹田	ス [*] ショウク [*] ン	H16卒	
	高島	エ [*] ク [*] レイ	H16卒	

●第25回北海道乗馬スポーツ少年団交流馬術大会兼第27回札幌地区乗馬大会
(於 北星乗馬クラブ・札幌乗馬倶楽部馬場 10月10日)

☆北海道乗馬少年団選手権障害飛越競技				減点	J.O.タイム
1位	菊地	ミスター [*] ルー	札幌騎馬スポーツ少年団	0	40.29
2位	菊地	アクションT	札幌騎馬スポーツ少年団	0	42.53
3位	関口	フ [*] ラザ [*] ーシュウ	静内乗馬スポーツ少年団	0	48.64
Open	一色	ハ [*] ワフ [*] 射	北大(3)	10	

☆小障害飛越競技 一般の部				減点	タイム
1位	松田	テ [*] ィレ [*] ーグ [*] ロー	旭川乗馬クラブ	0	91.52
2位	山口	ハ [*] リー	北星乗馬クラブ	0	98.73
3位	池谷	ハ [*] ワフ [*] 射	北大(2)	4	96.13

☆ビギナーズ障害飛越競技				減点	タイム
1位	黒田	勇人	旭川乗馬スポーツ少年団	0	84.08
2位	水沼	ハ [*] リー	北星乗馬クラブ	0	80.08
3位	水沼	ハ [*] ット [*] ルマー [*] ク	北星乗馬クラブ	0	89.90
Open	前野	イクス [*] ーション	H16卒	4	88.73
Open	林	イクス [*] ーション	北大(3)	4	88.79

●第26回山下杯・河田杯記念馬術大会(於 酪農学園大学 10月16日)

☆M級D標準障害飛越競技				減点	J.O.タイム
1位	林	北風	北大(3)	0	39.01
2位	勝野	リザ [*] ーフ [*]	オ [*] フ [*] ホ [*] ス [*] ミュ [*] ン	0	40.23
3位	池谷	北風	北大(2)	0	42.90
45秒E	一色	ハ [*] ワフ [*] 射	北大(3)		

☆L級A標準障害飛越競技				減点	タイム
1位	松浦	驟春	酪農学園大学	0	75.28
2位	高桑	驟進	帯広畜産大学	0	76.31
3位	藤本	フ [*] ラック [*] ジ [*] ーンス [*]	酪農学園大学	0	77.25
6位	山川	イ [*] フ [*] ン [*] コ [*] ント [*] ル	北大(1)	0	81.78
45秒E	宮本	ハ [*] ワフ [*] 射	北大(1)		

☆80センチクラス障害飛越競技				減点	タイム
1位	建部	シー [*] ベ [*] スト	北大(1)	0	73.71
2位	志藤	フ [*] ラック [*] ジ [*] ーンス [*]	酪農学園大学	0	83.65
3位	田中	驟春	酪農学園大学	3	94.72
4位	関田	シー [*] ベ [*] スト	北大(3)	4	78.69

☆60センチクラス障害飛越競技				減点	タイム
1位	三田村	リキーフ	ホフホホスコミュニ	0	85.55
2位	沖	シーベスト	北大(1)	0	82.70
3位	佐藤	ヤマノアソム	北大水産学部	5	106.48

☆ジムカーナ				減点	タイム
1位	小林	サ	ホーフレストファーム	0	108.10
2位	菅原	ヤマノアソム	酪農学園大学	1	113.91
3位	櫻井	リーダース	酪農学園大学	2	116.67
4位	吉村	駿春	北大(1)	4	107.35
4.5秒E	山中	リーダース	北大(1)		

●第55回全日本学生馬術大会(於 JRA馬事公苑 11月2日~6日)

☆学生賞典障害飛越競技				一走目減点	二走目減点	総減点
1位	森	ウイニングエッジ	専修大学	0	0	0
2位	大竹	千嵐	関西大学	0	4	4
3位	森	柏嶺	帯広畜産大学	0	4	4
1.4位	川上	ユウバク	酪農学園大学	8	4	12
1.7位	松田	柏嵐	帯広畜産大学	4	8	12
3.9位	税所	柏海	帯広畜産大学	12	12	24
4.2位	山下	柏爵	帯広畜産大学	12	16	28
4.6位	前田	エルクレイ	北大(4)	0	31	31
5.6位	清宮	チャレンジ8	酪農学園大学	17	32	49
	林	北翔	北大(3)	落馬E	23	—
	一色	北慧	北大(3)	2反E	4	—
	高橋	ウメシキ	酪農学園大学	落馬E	3反E	—

☆学生賞典総合馬術競技				調教減点	耐久減点	余力減点	総減点
1位	佐藤	明政	明治大学	47.1	0	4	51.1
2位	戸本	明州	明治大学	48.4	0	4	52.4
3位	為貝	桜凱	日本大学	47.6	2.8	4	54.4
1.3位	税所	柏海	帯広畜産大学	71.1	0	0	71.1
1.8位	山下	柏爵	帯広畜産大学	71.9	0.8	8	80.7
1.9位	森	柏嶺	帯広畜産大学	83.7	0	0	83.7
2.8位	松田	柏嵐	帯広畜産大学	82.5	14.4	16	112.9
3.2位	高橋	エレストクライマ	酪農学園大学	75.5	43.6	20	139.1
3.4位	清宮	チャレンジ8	酪農学園大学	80.9	59.2	14	154.1
	川上	ユウバク	酪農学園大学	84.4	73.6	3反E	—
	一色	北慧	北大(3)	E	—	—	—

●第45回北日本学生馬場馬術定期新人戦(於 東北大学 11月13日)

参加選手			
沖(1)	山中(1)	吉村(1)	
予選Aブロック			
1位	新潟大学		
2位	北海道大学(予選敗退)		
3位	宇都宮大学		
4位	群馬大学		

●第28回国立大学対抗馬術大会(於 群馬県馬事公苑 12月4日)

参加選手	
池谷(2)	谷山(2)
優勝	北海道大学
準優勝	金沢大学

◇調教報告◇

②北旋風(トルネードダンサー)②



騾 サラ 鹿毛
平成2年3月26日生
北海道沙流郡門別産
父 アスワン
母 ティージーブイ
平成5年9月4日入厩

調教報告

利根川 正明

10月に跛行をさせてしまい、それが長引き乗り始めたのは年明けからだ。今年の冬は降雪量がとても多く、障害は単一障害を2、3回練習しただけで、FWのみを行っていた。そして、4月中旬にやっと雪が融け、半澤杯に向けて障害練習を始め、運動量を上げていったら、また跛行させてしまった。半澤杯に向けて急に運動量を上げてしまったのが跛行させてしまった原因だと思う。これは毎年よく言われていることで、それを踏まえて練習できなかった自分は本当にバカであると思う。例年、雪が完全に融ける頃は半澤杯まで2ヶ月をきってしまっている。だから急に運動量を上げてしまうのだと思う。半澤杯までの1ヶ月で調整しきろうとするのは馬に負担がかかりすぎてしまう。やはり冬場や雪解け中に、ある程度練習していかなければいけない。冬場にコンビネーションを練習し、馬が障害を元気良く飛べる状態を作り出し、また、それについていき、いいバランス、リズムで障害飛越を行えるように調整し、雪割りの最中で、それほど大きく馬場が使えなくても、輪乗りの中で、障害飛越を行うなどし、経路廻りにつながる練習というのを、少しずつコンスタントに行っていくほしい。冬場、雪解け中は、練習環境が悪いし、維持するのが大変なので、妥協しがちになるが、そこを頑張ってもらいたい。そうすれば、半澤杯まで時間がなく、調整しきれなくても、それまでの練習を生かして良い結果が出せると思う。

半澤杯前の跛行は長引き、運動を再開できた頃には、公認大会まで3週間程度だった。大分良くなっていたが、また跛行してしまうかもしれないので、週6日の練習のうち、2日は乗らず、2日は少しFWをし、2日は障害練習等のしっかりとした運動を行うといったように北日まで調整することにした。公認大会では、フレンドリーはまずまずの走行ができたが、3日目のMCは6落下で廻ってくるには廻ってきたが、試合前にいまいち前進氣勢が足りない状態で、リズムも悪く、また、そのため前を出していかなければならなく、とても手の内に入った良い走行とは言えなかった。

こうして北日を迎えた。フレンドリーは自分個人の事情で出られず、二走を迎えた。試合前の状態は公認のMCのような状態で、前進氣勢が良くなく、いいリズムで飛越できなかった。馬の負担を気にして、準備運動の段階で馬を動かしきれないまま、障害飛越をしてしまったのが良くなかった。本番であるし、もっと入念に運動を行うべきだった。スタート前、まず馬を走らせようとして前に出したが、その時人馬転をしてしまった。再騎乗をして走行を行ったが、ダブルの2つ目で落馬してしまった。4歩の鈍角をつまらせ、1歩入ってしまい、ダブルでも1歩入ってしまった。その時先飛びをしてしまったので、オクサーで大きく煽られ落馬してしまった。

二走でした人馬転で前肢のつけ根を大きく切ってしまった。もう総合には出られないかと思うほどであったが、北大OBでノーザンファームの獣医師である川崎兄のおかげで、総合も出場することができた。ファームの仕事で忙しい中、度々治療に来て下さり、とてもお世話になりました。大変感謝しています。それに応えられなかった自分が情けないです。総合は余力で2拒止して、大きく減点して権利を取ることができなかった。

こうして、北日は散々な結果で終わったが、結局人の実力不足の結果であると思う。また、それを補うための練習、実戦練習も、馬を跛行させてしまったためにできなかった。これでは良い結果を出せなくて当然だと思う。トルには二年間、一度も良い結果を残してあげられなくて申し訳なく思う。

最後に一年を通してお世話になった部員、よくトルを見て下さった武井兄を始めとするOBの方々、外部の方々、本当にありがとうございました。



マチのほっとステーション

LAWSON

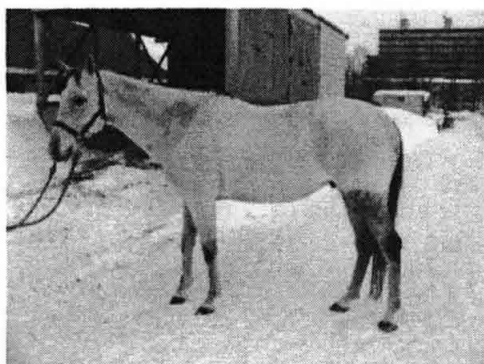
札幌北高前店

(有) 丸エス丸和食品

札幌市北区北23条西9丁目18-654

電話：011-717-7788

北彗(メジロゲネシス)



騾 サラ 芦毛
平成5年5月30日生
北海道伊達市産
父 メジロティターン
母 メジロマリア
平成10年11月8日入厩

調教報告

一色 真明

今シーズンのことは何も聞かず、来シーズン必ずや全日学で結果を残しますので、お許ください。

と、いいたいところだが、そうもいかないので今シーズンの調教について報告します。

今シーズンは本当に自分の力が試されるシーズンだったと思う。昨シーズンの結果は前チーフ、木村兄の頃の好調を引き継いで、その貯金を食い潰していたようなものだ。その兆候が前回の全日学での反抗っぷりだと思う。結局去年は自分で何も出来ていなかった。今シーズンの道大会での結果の不安定さはそのためである。

まず、春先、やっと地面の上で乗れ出した頃にフレグモーネになってしまい、出遅れた。本来春先はコンビネーション障害をどんどん行い、障害に対する感覚を思い出させたかったのだが、今年はそのこがまず不十分だった。その不十分のまま出場したのが半澤杯。春先でまだ馬に行く気があったので何とかあったが、人は馬にぶら下がるは、障害前に突っ込むはでぼろぼろだった。目標はあくまで北日学であり、無理してまで半澤杯の使う必要はないと思う。今回はその微妙なところで、人もそんな競技を選べるほどうまくないので参加することにした。結局このときの課題が大きく尾を引くことになる。

<障害>

障害について僕の課題は①馬にぶら下がってしまっていること。②変に頭を下げさせようとしている。③障害前で踏み切りを中途半端に意識してしまっていること。④経路走行のペースがつかめていない。この4つに集約されるのではないと思う。

まず①について。これは人の意識の問題。指摘を受けて気づいたのだが、僕は自分のバランスで乗れていなかった。手綱にぶら下がってバランスをとっている。これは多くの部員に当てはまらると思う。これに対してゲネの場合はもぐってきてしまい、踏み込みも浅くなり、障害に対しても集中しきれていないのではないと思う。さらに、②も関わってくるが、頭を下げるのはいいことだと

決め付けていた。ハミを突き上げて走るよりは多少は巻き込んでいるほうがマシだとは思いますが、それで終わってはならない。結局これは基礎的なことが出来ていないということだ。昨年は好調なゲネに甘えていた。みんな自分のバランスで乗れているかを今一度考えてもらいたい。これらは常に自分の姿勢を意識してチェックし続けることで改善されていくのではないかと思う。部屋には色々な参考ビデオがたくさんある。上手な人をたくさん見ていいイメージを身につけてもらいたい。

次に③について。これも、人の問題。中途半端に障害直前で踏み切り位置が見えてきてしまったために、少し完歩が合わないと思うと先とびしたり、逆に遠くから踏み切ったときについていけなくなったりした。少しうまくなってくると、このようなジククスに陥ってしまうのではないかと思う。これは7月の中野先生のクリニックで復調にきっかけをつかむことができた。人と馬との関係が崩れて、ゲネが障害に対して不安になってきたときに、中野先生にしっかり乗り込んで頂き、また人もの確かなアドバイスを頂き、自信がついた。結果が公認大会でのMC優勝である。どんなに障害前で踏み切りを迷っても人はしっかり体を起こしてゲネを信じて待つておく。あとは脚で左右にぶれないようににはさみ、前進氣勢を維持するのみ。そうすれば、ゲネは飛んでくれる。

最後に④について。これも結局、全部人が悪いのだが、まだベストなペースがつかめていなかった。ゆっくり過ぎたり、速すぎたり最後まで悩んだ。答えが見えたのは全日学。フレンドリーではゆっくり過ぎて完歩のあるところで一歩はいつてしまった。一走行目ではフレンドリーよりも元気よくいかないといけないと思い、また、直前に頬革が切れるというアクシデントもあって、走られすぎた。なかなか力加減が難しい。二走行目はどうにか悩んだのだが結局、一番よかったとき、公認大会のときを思い出して乗った。たとえゆっくりでも、しっかり馬体を起こして脚で推進していけば必ず飛ぶと信じた。結果、一落下のみという結果だった。大切なのはスピードを速くするのではなく、エンジンの回転数を高いところで維持すること。完歩の決まった障害間は下見でチェックするが、深くそばかりとらわれずに、しっかり障害に向け、ゲネを信じてどこから飛んでもいいように待つておけば必ずゲネは飛んでくれる。全日学二回走行を減点4で帰ってこれるほどのスーパーホースなのだ。信じていけばいい。

<馬場>

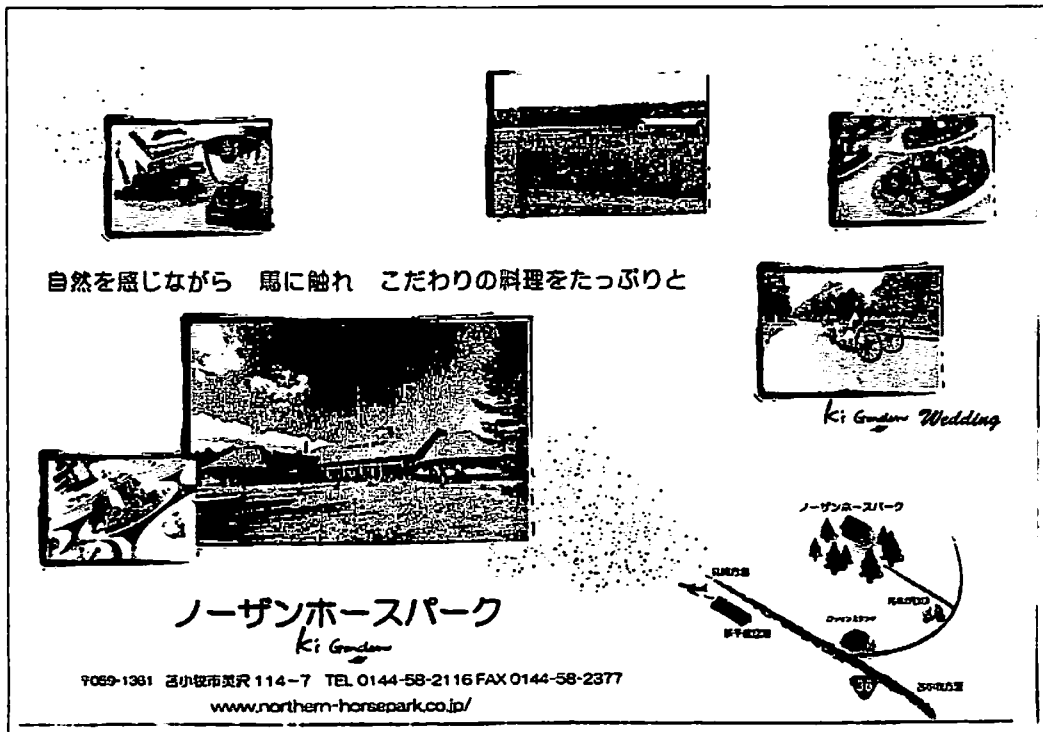
ツースターには毎大会使ったのだが、前半は先ほど書いたように巻き込ませていたためにいい点数は得られなかった。巻き込みの原因はハミが強いことと、脚不足だと考えた。もともとゲネはハミが嫌いなようですぐハミから逃げて巻き込む。もう二度と巻き込ませないつもりで集中して手綱を取った。また脚にしっかり従うように旋回や横運動を普段のフラットワークからかなり多く取り入れた。もう一つ重要なのが調教審査は馬場馬術とは違うということ。がちりした馬場運動ではなく、すたすた元気良く心をかけるべきだ。つまりここでのタイトルの<馬場>では不適切だった。などといって、全日学では調教審査で跛行をとられ失権してしまった。いれ込んでのイレギュラーを跛行ととられてしまったのだと思うのだが、本当に痛かったのかもしれない。北日学でも指摘を受けた。春先のフレグモーネのときに違和感を覚えたことはあったのだが、それが少しずつ蓄積されていたのかもしれない。冬はじっくり休ませようと思う。

〈野外〉

今年の北日学で3回目の耐久審査となったが、ようやく耐久のペースがつかめてこれたと思う。やはり始めのうちは怖くて抑えがちになってしまう。大切なのはメリハリで出すところはしっかり追って、障害前はしっかり戻す。この繰り返し。あとは馬と自分の力量を良く考えて下見を出来るだけたくさんすること。そして普段から野外の障害を飛んでおくこと。

ゲネは本当によく飛んでくれる。ゲネの問題はスタート。スタートゲートからスタートの瞬間に膠着してしまう。スタートゲート内での向きや与える緊張感を慎重に考えないといけない。今年、全日学で野外走行が出来なかったのが本当に残念だ。

今回、全日学をこのような形で終えたのは、本当に悔しい。来年は全日学での入賞を条件に、もう一度ゲネに乗せてもらう。自分で全日学二走を減点4で帰ってきた自信がある。じっくりと冬を休ませたら、さあ最後の全日学に向けて基礎固めからスタートだ。期待しててください。



自然を感じながら 馬に触れ こだわりの料理をたっぷりと

ノーザンホースパーク
Ki Garden

7059-1361 苫小牧市美沢 114-7 TEL 0144-58-2116 FAX 0144-58-2377
www.northern-horsepark.co.jp/

ノーザンホースパーク
Ki Garden Wedding

MAP

50

北風(ヤスノインディアン)



騾 サラ 鹿毛
平成8年4月29日生
北海道三石郡三石町産
父 ダイヤモンドショール
母 ヒカリハード
平成13年12月2日入厩

調教報告

前田 晋也

ヤスに乗っていく上で一番大事なことは人と馬の関係作りだと思ってやってきました。
木村兄や前野兄も同じようなことを調教報告で書かれています。

平成15年度部報(木村兄)より

「・新馬調教においては、体を作り、扶助を教えるとともに、この上下関係をゆるぎのないものにしておくことが大切である。・(略)・馬の調教においては誉めることが、最も大事なことであり、そこから信頼関係が生まれてくるのである。・(略)・上下関係が崩れてしまっただけでは誉めることもできなくなってしまうのだ。」

平成16年度部報(前野兄)より

「・特に注意したことは馬に対してメリハリのある態度をとるということです。悪いことをしたら叱り、納得したらしっかりほめる。叱ることよりほめることを何倍も多くするべきだと思います。・(略)・普段(曳き運動、外乗、手入れなど)から馬と人間の間(馬≦人間)を意識して馬に接する必要があると思います。」

僕もまさにその通りだと思います。馬術は人と馬が一緒になって行うスポーツであり、人と馬の関係がなくては成り立ちません。それに、実際に障害を飛んだり馬場を踏んだりするのは馬であるのに対し、人はその馬に指示を出すことが役割であり、関係のない・悪い相手からの指示など誰も聞きたくはないでしょう。逆に信頼に足る相手からの指示なら、少々困難でも、積極的にやろうという気持ちがおきてくるはずですよ。はっきり言って下手くそ学生が、馬術をやっていく上では技術の向上はもちろんですが、こういった関係を築いて少しでも馬が人間の言うことを聞こうという気にさせることが必要だと思います。

この関係作りの中で一番大切なことは、馬の気持ちを考えるということだと思います。馬が今ど

んなことを考えているのかを、練習中はもちろん、手入れ・曳き馬・装鞍など人と馬が接しているときは常に考えること・感じることを、これなしに馬との関係は作れないと思います。僕が読んだある本によると、ヨーロッパの競馬の調教師は馬が今ハッピーなのかをとても気にするそうです。これも馬の気持ちをつかむことが非常に大事なことでと認識しているからでしょう。

と、冒頭はヤスの調教報告だったのにいつの間にか話が脱線してしまいましたが、これが非常に大事なことだということを、この馬を通して特に感じたので書きました。また、現在の馬術部を見てこれが満足にできていないなと感じるのも事実です。馬がただ驚いただけなのにそれを反抗とみなして怒る、逆に馬がわがまましているのに人は振り回されてなだめるだけになっている、人がミスをしたのに馬にあたる、馬がもう運動に飽きてしまっているような状態でもただらと運動を続ける、馬に必要以上の負荷・苦痛を与える、などといった行為は紛れもなく馬の気持ちを見殺し、人から馬との関係を断ち切ろうとする行為に他なりません。残念ながらこのようなことがまだ見られます。馬が何を考えているかが分かればこのようなことは無くせます。常に人が馬を理解しようとして、馬が人についていけばハッピーだと思えるようにさせることが肝心だと思います(当然のことだが、馬術部の馬はペットではないので、ハッピー＝楽・甘やかしてはいない)。

やっとここからちょっと技術的な調教報告になります。

冒頭のようにまず関係作りを徹底して行いました。というよりは乗り替わり直後に跛行させてしまい、運動できなかったこともあります。これまでのチーフの方も言われているように、ヤスは十分な能力がある一方、ちょっと我が強く頑固なところがあるので、これを解決しなければ先々の見通しが開けてこない、しかし逆に言えば、しっかりと関係さえできれば、能力は確かなのだからあとはゆっくりじっくり力をつけていけばいいだけであり、僕はそういう長期的視点でやってきたつもりです。だから本当に基本的なこと、馬房で無口をつけるところから始めました。最初は馬房の戸を開けて無口を持って名前を呼んでも知らん振りしていました。そこで、最初は少し強引にでも人が無口を持ってきたら寄ってきて無口をつけるまで待っているということを教え、できたら餌をやる・愛撫するなどして誉めるということを毎日毎日繰り返しました。こういった単純かつ当たり前のことからしっかりと関係を築いていこうにしました。その後も曳き馬、調馬策、騎乗運動でも基本的なこと、しかも誉めて誉めてで関係を作るように心掛けていました。馬は誉めてよくなるのは大原則であり、叱るのも誉めるために叱るという気持ちでやってきました。まだまだ不完全ながらもこういった関係はだいたいできたのではないかと思います。

上に、関係はだいたいできた、と書きましたが、完全にできなかったのはやはり騎乗面での関係作りのことです。当然のことですが、関係が良ければ馬は何でも言うことを聞いてくれる訳ではなく、馬が言うことを聞きやすい状態にすること(安定したバランス・重心・拳・騎座、一定のリズムとペース)と、言うことをはっきり伝えること(メリハリのある分かりやすい扶助)が何にもまして必要なことです。しかし、これらはあくまでも基本中の基本で、いかに自分の基本がなかったことが分かりました。逆に言えば基本さえきっちりできれば、誰でも騎乗時に馬との関係作りができるはずなので、後輩のみんなはいつのときでも基本に立ち返って基本に忠実に乗って欲しいと思いま

す。

そして、騎乗面での関係作りをしながら、まずは故障しないからだ作りをしました。もともとさほど丈夫でない上からだがかたくほぐれにくいので、歩様が乱れやすくちょっと肩に跛行癖もついてしまっていました。原因はハミに対する反抗だと思いました。ハミに反抗し頭を上げて背を反らしながら運動をしてしまい、からだを大きく使って運動できないうちに肩に負荷がかかってしまっているのだらうと思い、まずハミに対する抵抗を和らげることをしました。具体的にはまずはハミを上を押し出すのではなく、手綱と反対方向すなわち斜め前方に押し出すようにしました。手綱を持って抵抗したら強めに持って馬が前に押し出すまで待つ、前に押し出したら許す、を丁寧に繰り返していくことで、よほど変なことをしなければハミを突っ張って頭を上げることはなくなりました。またゴーグをつけて運動していたこともよかったのかもしれませんが、少しずつながらハミへの抵抗は和らいでいったように思います。そして、肩を大きく動かして運動するようになり、跛行癖はほとんど解消されたように思います。冬の間はほとんどこういったことに時間を費やしていたように思います。

そして、雪解け後から本格的なフラットワークに取り組みましたが、なかなかうまくいきませんでした。原因としてはやはりハミに対する抵抗を十分に解くことができなかったことだと思います。ハミを持って我慢できるようにはなったのですが、そこから楽なつまりハミを受ける体勢にさせられませんでした。ハミを持つと一時的には我慢できるのですが、段々抵抗が強くなって、苦しくなって我慢しきれなくなって…という状態に陥ってばかりでした。原因は同じく人の基本技術不足です。もっと馬の反応を感じ取れて対応できたら、馬を楽な体勢にもっていきやすいようにできたら、といったところです。これができなかったから、調教審査では舌を出して減点という散々たる結果に終わってしまいました。

障害に関しては、ヤスは力があって飛越能力は高いがバスキュールが悪いという欠点を持っていました。だから、障害に関してはバスキュール改善を課題として行いました。バスキュールが悪いのは、障害を焦って飛んでしまうからで、つまり楽に障害を飛べるようにすることを大原則としました。基本的には1間歩の低いコンビネーションを繰り返しました。パウンスも練習法としてはいいのですが、パウンスだとやや突っ走ってしまうのであまりやりませんでした。そしてゆっくり障害に向かってゆったり大きく飛べるようにして、高さは求めませんでした。慣れてきたら1間歩のコンビネーションの後に13.5mくらいで障害をおいて、という練習を行いました。コンビネーションでいいリズムをつくり、そのリズムのまま1, 2, 3でゆったり飛ぶ、ということを繰り返す行うことでバスキュール改善を目指しました。これも高さは一切求めませんでした。やっても100cmくらいまで、高さをあげるよりはむしろ幅をつけていこうにしました。この練習方法はなかなか良かったと思います。ただし、リズムが何より大事です。リズムが悪いまま状態では意味がなく、むしろ逆効果かもしれません。ただ、正しくできれば有効な練習だと思いました。

ただし、これが経路走行でできないのは、やはりフラットワークができなかったからです。障害を飛んだ後、立て直して次の障害に向かう、をスムーズに行うためには、普段からそういったフラットワークができるようになっておかないと経路全体のリズムが壊れ、段々飛びも悪くなるということにな

と思います。

耐久審査に関しては良く分かりません。というのもあまりに人が下手すぎて馬云々のことはおこがましくて言えないです。ただおそらく人馬ともに経験と知識が必要だと思います。畜大と比べ経験が足りない分、普段から知識を蓄え馴致も計画をしっかり立てて行うことが大事ではないでしょうか。

以上偉そうにかつ長々と書いてしまいました。しかも、調教報告の割に全然技術的ではないことばかりでした。けれども、僕としては馬術は馬という生き物というパートナーと行うものだから、技術の前にそのパートナーをなるべく理解すること、馬の気持ちを理解することに重点を置いていました。だからオーバーワークや過剰な要求は絶対にしないように気をつけました。それは正解ではなかったかもしれませんが、間違っはなかつたと思います。東京には行けませんでした。少しずつ進歩していくのはうかがえました。ちょっと難しい性格でまだまだ課題は多いけど、能力的には間違いなく近い将来の北大のエースになる馬だと思います。今後のヤスの活躍を期待しています。

Let's Get a License

- ☆ 毎日入校OK
- ☆ 日曜・祝日も教習&検定実施
- ☆ 朝9時～夜10時まで教習
- ☆ 各方面無料シャトルバス運行

北大から
とっても近い
自動車学校!!

普通車・自動二輪・大型特殊

セット で取ればさらにお得♪♪

<普通自動車・大型特殊・普通二輪・大型二輪>



北25条



北海道中央自動車学校

札幌市東区北25条東1丁目1-17

TEL 711-3344

<http://www.hokkaidochuo.co.jp/>

厩 エルグレイ厩



騾 サラ 芦毛
平成元年6月10日生
北海道三石郡三石町産
父 メジロエスパータ
母 スナークリーズン
平成14年9月16日入厩

調教報告

前田 晋也

昨年度に引き続きエルグレイとコンビを組んで1年間やってきました。馬の能力を発揮させれば何の問題もないと分かっていたのですが、結果的には僕は彼の能力の半分くらいしか引き出せなかったこと、もし彼が全力を出したら乗ってられないということでありました。

根本的な原因は基本のなさでした。まっすぐ乗れない、馬上で安定できない、コンタクトが取れないなど今更言うのも憚れるほどの基本がなっていない状態で運動を続けることで、馬が障害を飛越しやすい体勢を作れないでいました。飛越しやすい体勢というのは、しっかりとハミを受けバランスが戻っている状態のことで、この体勢をきっちり作れることこそこの馬に乗っていく上で必要なことであり、逆にこれがスムーズにできればそれでもう十分であると思います。あとは全部馬がやってくれます。

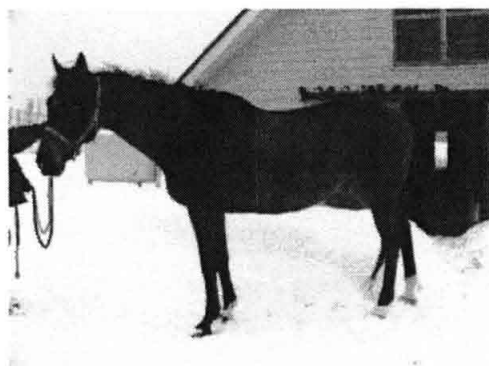
あと、彼ももう若くなく、また肺の持病も気になるころであったので、健康管理だけはしっかりやりました。結果的には春先に少し体調を崩してしまったのですが、それを除けば1シーズン通して健康でした。察するに朝昼の寒暖差と質の悪い乾草と敷き藁が良くないように思います。

最後になりましたが、メインフィールズの小野さんにはお忙しい中熱心に練習を見ていただきました。たくさんのことを教えていただき気づかせていただきました。本当にありがとうございました。

後輩へ

間違いなくうちでナンバーワンの馬です。こんな下手くそが乗っても結果を出してくれる馬なんてそうそういないと思います。健康に留意して1年でも長く活躍できるようにしてあげてください。

北翔(シンコウブラウン)



騾 サラ 鹿毛
平成2年3月6日生
北海道浦河郡浦河町産
父 クライムカイザー
母 アーマゲイ
平成15年1月19日入厩

調教報告

林 宣隆

シンコウブラウンはよく調教された馬であり、右後肢の腱を切っていて常にハ行しているため体力の維持と脚の確認が主な運動メニューでした。障害に関しては心配なく、その他では馬体管理に注意が必要でした。

普段のFWでは、まず「低伸させて背中を楽にした状態で大きく動かすこと」、次に「輪乗りで内方姿勢をとらせて後肢を踏み込ませていくこと」、そして「ハ行している右後肢を少しでもほぐしてやること」これが重要だと思います。

初めの低伸運動は、動き出しに体をほぐすことが目的でした。しかし、僕はこれが苦手だったので、放棄手綱で運動することからはじめました。最終的には一定のコンタクトを取りながら手綱を長くしたり短く持ち直しても馬のペースが変わらないようにまできなればよいと思います。

次に内方姿勢で後肢を踏み込ませていくことです。正確な輪乗りを描き、内方脚を使って外方手綱に乗せていく。それができたら巻き乗り、S字に手前を換え、輪のりの開閉、単脚の運動では、前肢旋回、後肢旋回、反対姿勢の前肢旋回、斜め横足までやりました。

僕は特にS字に手前を換えを多く入れ、手前を換えた後の新内方脚の反応を良くし、すぐに次の内方姿勢をとるようにしました。まずは、必ず新内方脚に反応させること、そして反応した脚を外に流れないように外方脚で押さえることを順々に行いました。またシンコウは非常にバランスに敏感だったので、人の左右の姿勢の入れ換えの練習にもなりました。S字に手前を換えは半巻き乗りの後に手前を換え、再び半巻き乗りという難しい運動ですが、人馬ともに「内方脚、外方脚、バランス」の習得に効果的な練習になると思うのでどの人馬も積極的に取り入れていい練習だと思います。

最後に右後肢の踏み込みについてです。やはり腱が切れているため踏み込みが浅くなりその弊害として右の内方姿勢がとりづらく外方のハミに乗ってこないことがあります。姿勢をとらせるために常に内方手綱でリードしてしまうことが原因でした。そのため、まずは前肢旋回で右脚の反応

を良くすること、同様に反対姿勢の前肢旋回での右脚の反応の改善、そして巻き乗り、S字に手前を換えを内方手綱を使わずにできるようにすることを心がけました。内方手綱を極力使わずに馬体の屈曲を維持できるようになれば良いと思います。

障害に関しては、リズムよく最初から最後まで一定のペースで経路を回ること、アプローチの三步前までに障害に対して真っ直ぐに向け、脚をつけて体を起こし待つことを心がけて乗りました。能力にはまったく問題はなく弱点はやはり疲れてきた時の右後肢にあると思います。

この馬は前進氣勢が非常に良いため、脚がおろそかになり最初から抑えがちになってしまいます。しかし逆に推進した中で乗った方がリズム良く、また、まとまりも良くなり一定のペースで回れるようになると思います。その中で、障害の三步前までにやるべきことをやり、待つことができれば問題はないと思います。後は、落下を少なくするために、馬を伸ばさないようにすることです。障害前でコンタクトを失わないこと、障害後もしっかり戻してから(その時、拳だけにならず脚も使うように注意する)次の障害に向かうことが大切だと思います。

唯一、障害で気をつけなければならないことは、疲れてくると右に逃げることです。経路の後半の苦しい右回転の後、大きな連続障害を見るとひるんでしまい、踏ん張りの効かない右側にアプローチの手前で逃避してしまいます。僕は北日と全日の一走目でやられてしまいました。特に苦しい右手前ではしっかり右脚で推進し、向いたらがっちり脚ではさんでおくことが必要だと思います。

さらに、その後の連続障害では右に右に寄れて跳んでしまうことがあります。僕は全日の一走目の最後のトリプルでどどん右に寄らしてしまい、Cでは目の前にそでしかなく、馬は止まり落馬してしまいました。知ってはいた注意点だったのですが、初めての経験で対応しきれませんでした。そのため、連続障害では初めから左を狙って跳ぶこと、左の開き手綱で方向修正すること、右脚を意識しておくこと、寄れる分、間歩が足りなくなるため元氣よく向かうことが大切だと思います。そして最後に落馬しないことです。これが一番重要かもしれません。

これらための障害の練習は長い時間できないため、実践的な経路の練習を主にすべきだと思います。先にも書いた、一定のペースで回ること、障害前と障害後にやるべきことに注意しながら、間歩のある障害、鈍角、障害間の回転をやりました。前に出した中での馬のコントロールの練習も大切です。とにかく、障害は人の練習であり少なければ少ないだけ馬には良いと思います。

最後に馬体管理です。右の腰に負担がかかりやすく、右の腰の沈みと右足の流れる歩様を見て運動量を調節する必要があります。また、疲れが前肢にもきたら要注意です。特に今年は大会後3、4日たってから疲れが出るが多かった気がします。強い運動をした日や大会の次の日は必ず運動をし、体をほぐしてから休ませ、なるべく疲れをためないようにしました。その他、できるかぎり放牧に出してやり気分転換をさせ、曳き馬も長い時間行いました。輸送減りが大きいため太らせて輸送する必要もありました。来年は北日が暑い福島であるため、特に注意が必要だと思

います。少し太めに見えるくらいがベストな体であると思います。

この一年間、僕は技術面でシンコウにいろいろなことを教わり、貴重な経験も数多くさせてもらいました。それもシンコウが一年間元気にがんばってくれたからでした。

「馬体管理」これがシンコウで一番大切なことだと思います。

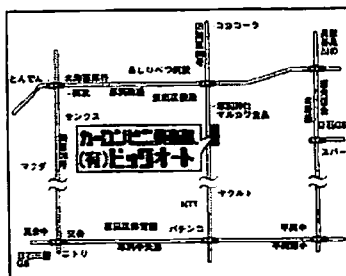
最後に一年間つきっきりで指導して下さった前野さん、本当にありがとうございました。また、今年の北日、全日ともにシンコウが最高の状態で挑み結果を出すことができたのは馬賁の池谷やサブの宮本のおかげだったと思っています。関東の奴らに負けない箱番も頼もしかった。ありがとう。もっといい結果が得られるように次もシンコウをサポートしていこう！



カーコンビニ倶楽部。

愛車のキズ・ヘコミを

最短**45**分～で直しちゃおう！



カーコンビニ倶楽部。

(有)ビッグオート

Tel.011-888-6888

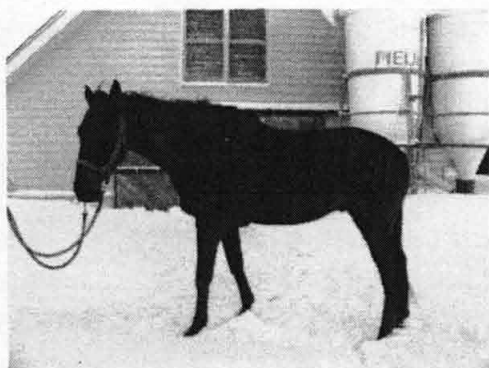
Fax.011-886-2042

〒004-0871 札幌市清田区平岡2条2丁目1番55号

営業時間：8:30～20:00 休業日：日曜日・祝日（日・祝受付のみ可）



北椎(シーベスト)



騾 サラ 黒鹿毛
平成7年6月5日生
北海道浦河郡浦河町産
父 タマモクロス
母 シークイン
平成15年8月25日入厩

調教報告

日野 恵介

シーベストは、前年度騎乗していた同期の前田から、夏の代替わり後僕が引き継ぐことになった。前年度の成績では、木村兄が秋に騎乗して、LB(当時 100cm クラス)で2回、前田が春に 90cm クラスと 100cm クラスを廻ってきた程度であったが、特に最近では競技馬でも練習の制限があるために満足に下級生を乗せられないという馬が多かったことと、老齢馬が多く、今の主力の馬の引退後のことなども考慮して、第一に下級生に有効な練習に十分に使えるようにすること、それとともに馬自身のステップアップを行うことによって、将来的に学生大会の総合クラスを目指せるようにすることを目標として騎乗してきた。

僕が乗り始めたときのこの馬の大きな特徴としては、非常に前にかかる馬であるということだった。競馬馬のように押さえが利かず走り出すというものではないが、ハミに対して非常に重ってくる。そのためか、障害の踏切が合わないことも多く、その上潔癖な性格の持ち主で、障害に肢を当たらないために、どんなに低いクロス障害でも、ぎこちなく、そして必要以上に大きく跳ぶことが多かった。そのため、僕も飛越中にハミを引っ張ってしまうこともままあったし、下級生の練習を行うときも、上手いかないときは鹿っ飛びを繰り返す、かえって下級生に障害への恐怖心を与えたり、馬にとってもマイナスになってしまったりすることがしばしばあった。

2つ目の特徴はすでに前述したが性格が潔癖なことである。そのため、特に見たことのない障害や壕などを嫌うぶりを多く見せることがあった。これは馬にとって欠点ともなり得るが、上手く乗りこなし、馬自身に自信がつけば長所となる(実際、経路走行中に障害を落とすということは数えるほどしかない)と思っていたので、馬の自信がつくまではあまり無理に物障害を飛ばすことはしなかった(その代わりにできるだけ多くの機会を使って、飛ばないまでも障害の馴致はした)。

3つ目に、特に飛越時での拒否の際だが左側によれることが多かった。これは最初、僕は経路走行中で障害の右側を飛ばすように心がけること、飛越時に右側の手綱を開くことだけで解決しようとしていたが、昔慶応大学で乗っていたらしゃった貫名さんという方に、左脚の反応が弱いということを指摘していただき、それ以後は特に左脚を用いた前肢旋回、斜め横肢を多く取り入れるよ

うにして改善を図った。

最後に腰が多少弱いところがみられることがあげられる。これはハミに対して非常に前にかかってしまうことと大きな関係があると思う。体を大きく使って運動できないために腰部の筋肉がほぐれず、そのままずんだ様な感じになり、運動に差し支えるような破行を示すことはあまりなかったが、今後も注意が必要であると思う。

一番大きな問題は一番上にあげたように前にかかることであると思った。しかし、僕が乗り変わった当時、僕の技量はそれ程大したものであるわけがなく、いきなりできることは限られていたため、とにかく今の僕が馬に対して何を求めることができるのかを考えながら練習を行った。無理にハミを持つとするよりも、低伸姿勢でしっかり推進することで馬を大きく動かすこと(これは腰部の筋肉を鍛えるためにも良いと判断したためである)、また障害もできるだけリズム良く飛べるようにすることをまず心がけた。特に冬の間では、多少足場の悪いところ(前述したように無理のない程度)での速歩や駆歩を多く行うことで馬の精神的にも肉体的にもプラスになると思ったし、僕もバランスや基本的な技術を磨くという点でもよい方向に向かうと考えて行った。

春にはその前年にもお世話になった中島さんの乗馬クラブで合宿に行かせていただいた。正直自分の技術力の無さなどを痛感させられることばかりだったが、僕にとって一番学びたかったことはシーベストが前にかかりやすく十分に僕がハミを持つことができなかつたため、それをいかに解決するかということであって、そのことに対し中島さんやスタッフの方々是非常に丁寧に教えてくださったので、とても学べるが多かつた。

合宿から帰ってまずティディーマン手綱を使用した。これは折り返しの手綱ほど扱いが難しくなく、僕にとっても、馬にとっても有益になることが大きいと思つたためである。それでも始めは全く上手いかなかつたし、当時は上手くできた思つていても今考えてみると形だけで、全く推進が足りなかつたりと、不十分な点は多々あつたがそれでも僕が乗りかわつた頃に比べれば、人馬的に大分よい方向に進んでいたと思う。事実、雷が降る前にはコンビネーション飛越時の踏み切りバーが一本ではリズムを崩すことが多く、常にバーを4本ほどキャバレッティー気味に置いていたのだが、雪溶け後は踏み切り1本でもほとんどリズムを崩すことは無くなつていたし、以前みたいに飛越中に前にどんどのめつていくということも少なくなつていた。また、半澤杯あたりから前述したように前肢旋回や後肢旋回、斜め横歩、反対駆歩、後退、肩内などといった、運動のバリエーションを増やして、脚反応の確認、およびとにかく後肢を使わせる運動ということを意識して行った。特に後退は飛越練習時に多く取り入れることによって、以前に比べ、障害に前から突っ込んでいくという感じではなく、しっかり後肢を使えるようになり、飛越時のぎこちなさもなくなつていった。

このように僕的には人馬ともに悪い状態ではないと考えていたが、結果的には100cmクラスを返つてこれたのは、北日学での1回だけとなつてしまつた。競技の開始が、自分が考えていたよりも30分以上早まりろくに準備運動もできないまま競技に出ねばならなかつたり、規定では出すはずの無い障害が出てきて全くの馴致不足であつたりと、言い訳みたく言い訳はいえるのだが、それでも結果は結果だし、結局は自分の力量不足、考慮不足であつたことに代わりは無かつたとおもう。どちらも一度本部と連絡をとるなど、解決する方法はいくらでもあつたはずである。同じような

失敗をこれから乗る人は気を付けて競技に出るようにして欲しい。本番で失敗すればいくら状態は良かったのといっても後の祭りではない。

ただ北日学での走行は非常に良いもので、タイムで減点がついたものの、一度も障害を嫌うそぶりは見せなかった。このとき一番気をつけたのは他の馬よりも少しアプローチのラインを長めに取ることを意識した。そうすることで馬も踏み切りを合わせやすくなると思ったためである(決して人が合わせようとするようなことはしなかった)し、事実このときは踏切を馬が間違えることも少なかった(最終障害だけは思い切り詰まってしまったが)。

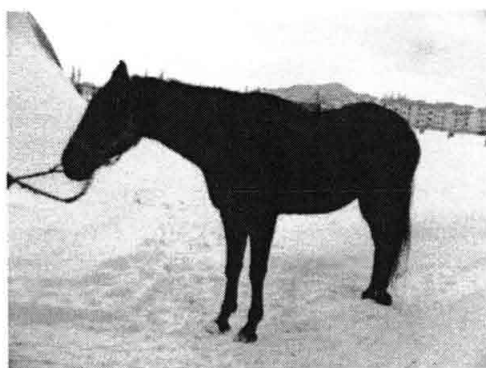
馬場に関しては2starを3回ほど廻ったが、やはり問題だったのは口向きだった。特に馬と一度喧嘩などをして興奮させてしまうと、そこから修正するのはとても難しかった。準備運動ではまず、最初は口向きを意識するよりも、発進、停止、つめ伸ばしといった基本的なところから丁寧にやって、徐々に後肢を大きく動かすような運動をして、少しずつ口向きに慣れさせるように運動することを心がけるようにするべきだと思う。

最初に述べた問題は改善したように感じるとはいえ、まだまだ解決はしていない。正直、いまだに新馬とまではいわないものの、競技にたいして安定して使えるほど育てているとはいえないと思う。前にかかっていくこと、左脚の反応が弱いことは特に注意を払って乗っていくようにして欲しい。とにかく後肢を使わせる運動を多く取り入れるようにするとよいと思う。あと潔癖な性格のため、馴致を多くはやっても決して急がないこと。無理をせずとも自信とともに馬が飛ぶことを覚えると思う。自信が無いちは決して無理をしてはいけない。これらのことに気を付けて乗るように注意すれば、今のところ人の言うことに対して非常に素直であるし、障害を落とさないため、上手く乗れば総合競技であればこなせる程度には成長できると思う。また下級生にとっても乗りやすく、扱いやすい馬である。逆に言えば、特に馴致等で人が上手くできないのに無理強いをしすぎると非常に悪影響になってしまう(どんな馬でもいえることなのだけれど)ので気を付けて欲しい。

最後に、個人的に武井兄、木村兄、前野兄には大変お世話になりました。また、市川先生、井上先生、春に合宿させていただいた NHP、中島トニアシュタール、メインフィールドズのスタッフの方々、慶応馬術部 OB の貫名さん、来札時に見ていただいた堀崎さんにもお世話になりました。この場を借りてお礼を申し上げます。

こうして書くと結局僕ができたことはほんとにわずかなことしかできなかったなという思いが強いのですが、少なくとも悪い方向には向かっていないと思います。馬とともにこれから乗る人もぜひぜひがんばってください。シーベストが北日学で将来いい成績が取れることを期待してやみません。

北閃(パワフルショット)



騾 サラ 青毛
平成9年4月21日生
北海道三石郡三石町産
父 ブライアンズタイム
母 ゴールデンリッカ
平成15年11月15日入厩

調教報告

一色 真明

<引継ぎから雪解けまで>

僕が北閃(以下、パワ)の調教を担当するようになったのは昨シーズンの秋。春の前チーフの木村兄の離札を前に、引継ぎを兼ねてチーフを任された。当時のパワの部内での位置づけは「潜在能力は高いと思われるが、乗り手を選ぶ難しい新馬」くらいであったと思う。まず、このとき最も問題だったのが「乗り手を選ぶ」という点。木村兄のようなすばらしい乗り手の下では従順によい動きを見せる。実際、木村兄が乗っていたときは、かなりのレベルまで調教は進んでいたと思う。しかし、僕たち下手くそな現役が乗ると、パワは乗り手をなめてしまい、ただの輪乗りでさえも逃げ放題という状態だった。このまま木村兄が離札してしまえば、現役部員は全く乗りこなせなくなり、離厩も考えないといけなくなってしまう。このような状況でチーフを任されたら、僕は思っている。

乗り代わり直後は本当にひどかった。運動中に少しでも油断しようものなら簡単に出口方向に肩を張って逃げていってしまう。馬配に付いた下級生が乗った時はさらにひどく、曲がることすら難しい時もあった。なりよりも、この状況を直さなければ何も始まらないと思った。まずは、チーフ交代後の秋から冬にかけて、きちんと輪乗りをすることだけを考えて。横木などで馬場を20~30mほど正方形に区切り、その中で常歩、速歩で輪乗りを続けた。徐々に反抗が少なくなると巻乗りや前肢旋回を頻繁に組み込んでいった。正方形の中で確実に正しい運動ができるようになるまで繰り返して同じ運動ばかり続けた。横木をはずした後も同じように輪乗りを繰り返した。少しでも馬が逃げようものなら、すぐに乗り手が反応し、打脚や舌鼓、場合によっては調鞭などで懲戒する。このときの騎手のセンサ、懲戒の程度、そして絶対に人が馬の上にいるということが重要であろう。そして、絶対に二度同じ事をされてはならない。下級生を乗せる場合はこの判断が難しい為、下級生が確実にできるレベルまで号令の内容を下げる必要がある。パワの場合、春まで下級生を乗せたら狭く仕切った馬場の中での簡単な運動しかやらせなかった。この時期はパワにとっても、下級生にとってもつまらなかったと思う。しかし、ここをまず越えなければ、この先にも始まらないと思いつながり続けた。

もともと調教自体はだいぶ進んでいて、パワの騎手に対する許容範囲が狭かっただけなので、その許容範囲を広げることが僕の仕事だと思っていた。シーズンの目標を「100cm までの経路を確実に無反抗で回ってくる」、「馬場二課目で常に 50%以上」と設定した。年齢的にもまだ若く、焦らずじっくりいけばいいと思った。

ようやくフラットワークでの反抗もほぼなくなりだした春、雪解けと同時に少しづつ障害など、いろいろなことができるようになってきた。

<障害について>

もともとパワはバネが非常にあったが、バランスが前のめりになりなっていき、前肢でバーをこするように飛んでいた。これは人が手綱にぶら下がってしまっていたことにも原因があった。まず、コンビネーション障害を少しずつはじめた。数や高さはあまり求めず、毎日少量をコンスタントにこなした。馬の飛越後のバランスバックとジャンプ力の強化を目的に、コンビネーション中にバウンスを頻繁に組み込んだ。また、モノもいろいろなものを入れ、ほぼ順調にクリアした。しかし、問題はリバープールの。もともと、リバープールにはコンプレックスがあるらしく最初は近づくことも嫌がるがあった。北大にある 2 種類のリバープールを、誘導馬もしくは人を先に飛ばせ、エサをうまく利用しながらならしていった。

経路走行は 100cm 以下のクラスをコンスタントに使った。最初は障害に向かって突っ走ったり、雰囲気にもまれて走り出そうとした。これを人がぶら下がって抑えようとしたものだからよりいっそう悪化した。しかし、人がしっかり自分のバランスで乗り、のめっていかないように気をつけていれば、バネを生かして、ゆっくりと一定のペースで経路を回れるようになった。同時に下級生を乗せても安定して経路を帰ってくるようになった。

ここまで順調に思われたが、北日学から離厩の危機が訪れた。北日学の野外が散々だったのだ(野外騎乗については後述)。100cm 以下クラスでは毎回入賞していたが、きちんと能力の高いことを示さなければ、新馬が続々と入厩してきた北大を追い出される状況になってしまった。そこで秋の大会から 110cm に使うようになった。高さが上がって、きちんとエンジンをかけなければいけないものの、100cm と同じようにゆっくり一定のペースでまわってこれた。ゆっくり障害前で力をためて一気にバネを使って飛ぶので人がついていけなくなるほどだ。それほどこの馬にはバネがある。十分、北大に残す価値はあると示せたと思う。北日後は小さな大会に使えるだけ使った。ここでわかったのはどんな経路でも絶対油断しないこと。いつ逃げようとしても必ずすぐに対処できるように集中しておくこと。あとはリバープール。北大にある 2 つはクリアしたものの、ノーザンや福島、北星や酪農ではまだまだ馴致や経験が必要である。

<馬場>

今シーズンの目標は二課目で常に 50%以上。道大会に毎回使うことで得点率は 56%ほどまでとれるようになった。そろそろ三課目くらいはこなせなと、という意見もあり、三課目での 50%以上を目指すようにした。三課目でも 50%をとれるくらいにはなっていた。馬場のほうは人が丁寧に乗

れば順調にいらっていると思う。

<野外走行>

野外走行についてはまだまだ課題が山積みだ。6月に奮大に馴致にいった。普通の固定障害や、上り下りの障害は難くこなすのだが、とにかく穴のある障害を嫌がる。誘導馬がいるとついて飛ぶが一頭ではなかなか飛ぼうとしない。これも、北大の馬場周りの乾潦やカフィンが難くこなせるようになってきた。北日学の野外は馴致と思ってオープン参加したが、森の雰囲気がいやだったらしく2番障害までしかいけなかった。大会後の馴致ではやれるところは一通りまわれるようになった。しかしまだまだ経験不足である。

<今後の課題>

前述したとおり結局のところ、まだまだ経験不足ということだ。何の経験かという人の指示に従わなければならないのだということ。馴致をするに越したことはないが馴致だけではきりが無い。馴致していないものでも飛ばなければならないものは飛ばないといけない。許容範囲は少しは広がったと思うが、まだ不十分だ。今後もじっくりと人の指示を信頼して受け入れられるように、信頼関係を築いていってもらいたい。そうすれば十分将来の北大を背負っていく競技馬に成長するだろう。



世界のライダーに愛用される
ARIATブーツ
その理由は履けばわかります

ARIAT COBALT DEVON PRO



乗馬用品専門店

(株)ライトスポーツ・ルウム

〒550-0015 大阪市西区南堀江 4-2-3

TEL 06-6533-0777 fax 06-6533-0778

URL: www.ruhm.co.jp

E-mail : info@ruhm.co.jp

REITSPORT
RUHM

カラー: ブラック、コードバン

価格: ¥38,850(税込)

北遥(イクスカーション)



騾 サラ 鹿毛
平成10年6月20日生
北海道浦河郡浦河町産
父 ラムタラ
母 インパレル
平成16年9月15日入厩

調教報告

前野 伸策(04年度卒)

この馬はすこしカリカリしやすいが、とても素直な性格をしているので、調教を進めていく際にはその長所を損なうことがないように注意した。最初の3ヶ月ほどはシャンポン調馬索を中心とした運動と横木通過からのクロス、バウンス、コンビネーションという流れで障害調教も進めていった。この馬は単独での障害はその障害に集中して向かっていくが、二つ以上の障害、たとえば間歩1歩のダブルとかになると、向かう前に奥の障害に注意しすぎて手前の障害をあまり見ないような感じがあった。そのためダブルのとき、手前の障害をうまく飛べないので2つ目の障害もうまく飛べず嫌気が差してしまうという感じになってしまう。だからまずは一つ一つをよく見させて、良いリズムとペースで飛越すれば楽に飛べるのだということを馬に刷り込ませなくてはならないと考えた。よってまずは常歩、速歩でのキャバレッティ通過で一つ一つの横木を注意させるようにし、注意するようになってきたらキャバレッティの後に2.6mくらいでクロス、その後徐々に間歩3.0~3.3mでクロスをおき、最終的に5つのバウンスを飛べるようにもっていった。バウンスに慣れてきたら、バウンスの2つ目と4つ目を地上横木にし、それでリズム良く飛ぶことを覚えたら地上横木を抜く。この結果、奥の障害ばかり見ることはなくなり、わりとリズム良くコンビネーションを飛ぶようになってきた。馬の筋肉の発達具合もあるので、MAXを90~100cmとして、間歩を変えたりして馬の様子を見ながら徐々に高さを上げていき、同時に門扉、レンガ、プランク、リバプールなどの物障害も馴致していった。物に関しては特にどれを見るという感じはなかったので、丁寧に馴致していけばいまのところは良いと思う。駆歩飛越はコンビネーションの後に広めに間歩をとって踏みきりが合うようにして徐々にやっていけばよいと思う。障害を飛越したあと、馬が自分からバランスバックしてくるよというのと、障害を飛ぶことに対してできるだけ嫌気を与えないようにするために、コンビネーションの延長線上でえさを使ってやるようにした。それなりに効果はあったと思うが、逆にコンビネーションを通過したら終わりだと馬が認識するようになってしまった。今シーズンは例えばコンビネーションの後、でた手前の駆歩で輪のりしてからとめるように工夫していったほうが良いと

思う。フラットワークは調馬索から停止・減速、8の字乗り、後肢旋回、前肢旋回、輪乗りの開閉、巻乗りという流れで進めていった。調馬索で落ち着いてきたらシャンプーをつけて両手前10分位(あまり長すぎると飽きてくるので長くならないように注意した。)の低伸運動、このとき声に対する反応を高めておいて騎乗しての停止、減速のときに馬が理解しやすいようにうまく声を使ってやる。肩をはりやすい(特に左肩)ので後肢旋回で確認し、前肢旋回で単独脚に対する反応を徐々に求めていった。前肢旋回に関して最初ほとんど反応しなかったので内方の手綱を極端に開いて馬が理解しやすいようにして、とにかく後肢を横に動かすようにした。最初は一步反応したらよしとして、急に求めすぎないように注意した。繰り返すうち徐々に理解してきたら手綱を開くのを小さくしていく、手綱から脚に対する反応にもっていくようにした。この馬は踏み込みが悪いので、運動全体として意識して前に出していく必要があると思う。



コンパ予約受付中

コンパ150名様OK!
 当店誕生日、御利用の方には
 カラー写真・粗品を
 差し上げます。



焼鳥 居酒屋 きよた

札幌市北区北17条西4丁目

☎(011)747-7000

美味しさ発見 新しくオシャレになった
時の館で、一時を
すごしてみませんか。



カレーライス
焼肉丼
ソフトクリーム
各種あります。

営業：11:00～24:00
 N18 W7
 TEL 726-0158

カレーから明日を見つめる
自由人舎 時館

ラーメン 大将

北18条店	☎737-7330
北22条店	☎747-7776
北25条店	☎707-5707
麻生店	☎736-8800

北煌(ウインジーニアス)



駒 サラ 鹿毛
平成12年4月19日生
北海道千歳市産
父 バブルガムフェロー
母 サクラギャル
平成16年10月24日入厩

調教報告

利根川 正明

屈腱炎を患っており、乗り始めたのは年明け頃だった。この頃は木村兄に調教をしていただいていたのだが、その時期は木村兄も忙しく、調馬索や軽いFWしか行っていなかった。本格的に乗り始めたのは4月からだった。それまで、自分は競馬上がりの馬を障害馬へと調教していくことをやることがなかったので、色々と苦勞したが、その中でやってきたこと、また、その雑感を書いていきたいと思う。見当外れのことが多いかと思いますが、ご容赦ください。

・FWについて

調馬索は冬場の間に行っていたので、シャンボンを用いるようにした。これを5月末まで毎日行なった。それ以降は運動量を少なくするため、あまりやらなくなった。この馬は、右手前は内方姿勢をとりすぎて左肩を張って外に逃げる傾向があり、左手前は逆に内方姿勢をとれず外を向いて回る傾向がある。現在、キ甲の高さくらいで作用するようにしているが、いつも低伸した状態を保たず、たまに大きく頭を上げてしまい、シャンボンに対する譲りはあまり良くはならなかった。

FWにおいて、乗り始めた当初、この馬は首を高く上げ、背を張って運動するので、顎を譲るといふことをさせることができなかった。そこで、3月くらいから木村兄が折り返し手綱をつけて騎乗した。また、この頃は右手前で馬が出口に向かって大きく逃げようとするので苦勞した。ただ、これはまずコントロールしやすいようにゆっくりにして、逃げる場所で今よりももっと内側へと馬を誘導していくことを繰り返していくうちにやらなくなった。

FWは主に輪乗りの中で行っていたが、1ヶ月もすれば、頭頸をキ甲よりも低く保って運動できるようになった。右手前では、人も馬も楽な状態で頭頸を低く保てたが、左手前は回転で内方姿勢をとらず、足さばきも悪く、譲らせるのは大変だった。

折り返し手綱を使うに当たって気を付けたことは強い作用によって、顎を譲り、頭を下げたはいいが、ハミにかかっていくという状態にならないようにすることだった。しっかり体を起こし、前にかかってきたら拳で止めて、同じペースで推進していった。そうしていくうちに折り合いがついてきて、苦勞せずに低い体勢を維持できるようになった。

また、そのような状態で運動していくうちに、駢歩の乗り心地が変わってきた。馬が起きてきて、頭頸を低く保ち、ゆっくり動けるようになり、座りやすくなった。下から見ても馬の動きが大きくなったように感じた。8月には水勒でも低伸させられるようになってきたので折り返し手綱を使わなくなった。

横運動に関しては7月くらいから取り組み始めた。もっと早くから始めても良いと思うが、屈腱炎を患った左前肢の負担を考えて運動時間を増やしたくないのでやらなかった。前肢旋回の徒歩調教から始めたが、自分の望んだ動きをする時もあれば、しない時も多く、馬に常に正しい動きをさせることができなかった。騎乗時も似たような状態だった。

良くなるきっかけをつかんだのは9月の初めに外部の方に乗ってもらった時だった。馬はしっかり大きく、各々左右前肢を軸として前肢旋回をしていた。参考になったのは内方手綱の使い方である。単独脚を使い内方後肢を動かす時に、馬を内方に導いてやることによって、より馬が動きやすそうにしていた。

この時にしっかり大きく正しく動けるようにしてもらったせいか、この日以降は単独脚を使えば、しっかり内方脚を内へ踏歩するようになった。1歩、内方脚で動かしたら、外方手綱と外方脚で一旦止めるようにした。まず、それができてから、2歩、3歩ずつ動かして、止めるというようにしていった。

この馬は新馬であるから動き、歩数は小さくて良いから、しっかりコントロールして運動を行い、コントロールできてから動きの大きさ、歩数を求めるようにした。よく前肢旋回を行う時、初めは良いが、そのうち肩から逃げられたり、中軸旋回になってしまっている人馬をよく見かけるが、自分の要求する動きから逃げられたり、緩慢になり、動かなくなってしまうのは、コントロールしているとは言えず、調教上良くないと思う。

・障害について

6月中旬までは、キャバレッティーを主にやっていた。2ヶ月半の間キャバレッティーをやっていたわけだが、この間は故障馬が多く、下級生を2人乗せたりしていて、左前肢のことも考えるとなかなか新しい作業に取り組みなかった。

最初、キャバレッティーを1本だけ置き、常歩でそれを通過させ、落ち着き、しっかり通過できるようになったら、1ずつ増やしていった。4本になり、慣れてきたら高さをつけた。速歩でも1本から始め、常歩と同様に行った。

この馬は障害に対してかかっていくところはなく、むしろ障害前、間、後で失速していく傾向があり、キャバレッティーでも速歩で向かって、途中で常歩になってしまうことが多々あった。このような馬で障害をやる上で気をつけることは、活気のあるペースで、障害前、障害間、そして障害後を一定のリズムで真直ぐに通過するということである。当たり前のことのようにあるが、もし馬が障害前後で速くなったり、失速したりしていると、障害に突っ込んだり、つまって飛んだりし、また人はそれに随伴して行きづらい。このような状態だと馬は飛びづらく、人もしっかり随伴できず、馬に苦痛を与えてしまい、馬の障害に対する自信を無くさせてしまうことになると思う。この馬の場合、とにかく障害前後に失速させないように注意し、元気の良い、一定のリズムでキレよく飛ぶことを心掛

けた。これを守れば、人は馬に随伴しやすく、馬も苦痛を感じることなく自信を持ち安心して障害を行うことができた。とは言っても、このことを学んだのは、7月下旬に木村兄に乗ってもらった時だった。木村兄は障害前に鞭や打脚などを用い、多少強引にでも馬が障害に向かう時、ためらわさせずに飛越させ、最終的には、駢歩で元気良く1m以上の単一を飛越させていた。自分もこれをきっかけにジーニアスに良い飛越をさせられるようになってきた。また、それまでの自分は結局、馬が障害をこなしやすい前進氣勢、リズムで障害を行えていなかったことを痛感した。乗り手は常に障害を飛ぶためのベストな前進氣勢、リズムを馬に与えられるように努力しなければならない。これから障害飛越を覚えていく新馬の場合、特にそうである。

話を戻すが、6月半ばくらいから障害をやり始めた。速歩で、キャパレットィー通過後、踏み切り2、65mで40～60cmの障害を飛越させるという形で、まずやってみた。しかし、拒止はしないものの、飛ぶというよりは跨ぐといったような感じで、とてもこれ以上段階を上げられなかった。これは前述したこともあるだろうが、それ以上に馬が飛越するということをつかいていないような気がした。それで悩んでいたのだが、外部の方から「速歩から飛越するというのは馬にとって自然な事ではない。馬が何かを飛び越えるのは駢歩で行うのが自然なのでないか。」と言われた。後に色々聞く所にとると、例えば北大OBの川崎兄も障害はまず自由飛越から行うそうだ。JRA日高育成牧場の馬も、まず大きな丸馬場で空馬で自由飛越をさせているらしい。(結構1m20cmくらいまですぐ飛べるようだ)障害馬術などの教本も、まず自由飛越を行う様である。

そこで、障害に取り掛かるに当たり、まず駢歩飛越を主体にやってみることにし、調馬索による自由飛越を行うことにした。まず速歩で横木、低いクロスを通させてから、駢歩で横木、低いクロス、単一と飛越させていった。三週間くらいで右手前では80cmまで良い感じで飛ぶようになった。しかし、左手前は外を向きながら動いていたり、また反対手前がよく出るので、あまり高くはせずに障害を飛越させた。

調馬索で障害を飛ぶためには大きい半径の方が良いが、大きくすると速歩によく落とされたりした。それで駢歩に戻そうとしたが、なかなか駢歩が出なかったり、反対手前だったりして、うまく調教を行えないことが多々あった。やはり、一度正手前の駢歩を出したら、それをずっと維持して、障害飛越を行うのが理想だろう。しかし、北大の追い鞭は短かったりして上手くできなかった。実際にはやらなかったが、追い役と誘導役の二人に分けるべきだったと思う。追い役は常に一定のペース作り、駢歩の維持に集中し、誘導役は出口に逃げられないようにしたり、障害着地後しっかり正手前が出るように、内方姿勢をとらせようと集中して作業すれば、もっと上手く調教できたと思う。上級生同士が時間を合わせて作業していけたら良いと思う。しかし、調馬索作業は効果があったと思う。ジーニアスも速歩飛越ができるようになってきたし、その後、コンビネーションをやっていく上での下地にもなったと考える。

自由飛越についてだが、OBになってから中島トニアシュタールで習う機会があった。やはり、自由飛越は新馬に飛越を教えるのに最適であると感じた。20m×40m(コンビネーションを行う場合はもう少し大きく)の馬場で二人の追い役が半分に分かれて、自由飛越を行わせた。追い役はなるべく余裕のある地点から駢歩を出させ、急がない、一定の元気良いペースで馬が障害に向か

えるように努めた。当然のことだが、暴走していくタイプの馬は、落ち着くまで横木、低い障害に慣れさせてから調教し、障害前に失速する馬(ひるむ、少し重たい馬)は少し元気良く障害に向かわせ、良い飛越をさせるように心がけた。

自由飛越の良い所は、人が馬の飛越を客観的に見ることができ、馬も束縛なく飛越を学ぶことができる所である。馬は良いペースで向かっていけば、最初はバカっ飛びしたり、近かったり、遠かったりしていても、自ずと良い踏み切り、パスキールを理解し始めてくれる。これは、人が遅れたり、背中を叩いたりと苦痛を与えないので、理解が早く、また、馬が自ら障害に向かっていくので、自ら良い踏み切り地点を探すからだと思う。(ただし、ペースはしっかり考えてやらねばならないと思う)

また、自由飛越は蹄跡を頼るので、苦勞なく、正手前で真直ぐに障害を飛べるのも良い所だと言える。調馬索飛越は、まず鞭に対して逃げることもあり、真直ぐ走らせずらいし、苦手な手前は回転が悪く、良い飛越をしづらい。真直ぐ障害に入れない。反対手前が出てしまう等、様々な欠点があると思う。

中島トニアシュタールの馬は130cm以上の飛越もこなしていた。ただ、そこまでの高さは必要ないので、まず乗って十分キャバレッティーを慣らした馬に1m前後までで単一、オクサーを教え、クロスから単一といったようなコンビネーションを教えていけば良いと思う。木村兄、川崎兄等、自由飛越の経験がある方に教わる機会があれば、ぜひ教えてもらうべきである。

8月になってからは駈歩でコンビネーションを行った。クロス～9.5m～単一とシンプルな設定で行った。一個目のクロスを元気良く飛ばせて、間の二間歩は少し戻して単一を飛越するようにした。クロスでつまってしまった場合は少し前に出してしっかり踏み切りが合うようにした。1mの単一、H90 100 W130までのオクサーやH80 90 W150までのオクサーなどを主に飛越した。馬が大きく体を使って飛越するように幅の広いオクサーを飛越することにこだわった。

それを安定して飛越するようになってきたら、その後駈歩を続けて、単一や簡単なコースを走行するようにした。よれることがあるので、しっかり手のうちに入れて障害に向かうように心がけた。

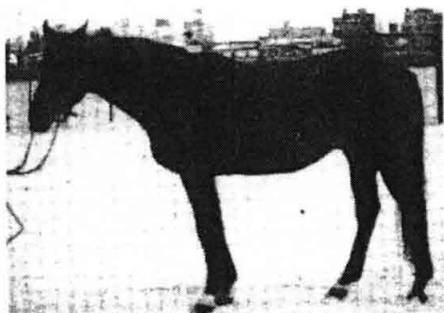
速歩でコンビネーションに入ると馬のリズムが少し遅く、キレの良い飛越ができず、つまって飛ぶような感じだったので、駈歩でコンビネーションをするようにしていた。しかし、冬場は駈歩でコンビネーションはできないし、駈歩でコンビネーションに入ると一個目が合わなかったりして、一年生などがやると間歩が合わなかったりすると思い、速歩でのコンビネーションに取り組むことにした。

速歩でコンビネーションをすると良いリズムで飛越できない一番の原因は速歩飛越の着地後すぐに速歩にしてしまっていることではないかと考えた。駈歩でコンビネーションをする前、速歩で単一を飛越するのだが、その着地後、馬が自然に速歩にしようとしているので、そうさせていたが、それが良くないと考え、むしろ着地後、元気良く駈歩をするようにした。速歩でコンビネーションをさせるなら、普段からこのような習慣にしておくと思う。

以上が約半年間の新馬調教報告です。低レベルな内容で、稚拙な文章ですが、少しでも現役の役にたてば幸いです。ジーニアスが末永く北大で活躍できるよう、現役は真摯に調教に取り組んで下さい。

◇北凌号離厩特集◇

北凌(ハギノレジェンド)



騾 サラ 鹿毛
昭和62年4月10日生
北海道浦河郡浦河町産
父 ハギノカムイオー
母 ハギノコトブキ
平成4年6月12日入厩
平成17年10月17日離厩

離厩報告

林 宣隆

10月9日、北凌号は高齢のためメインフィールドに離厩しました。

北凌号は平成4年に北大に入厩して以来13年の間に3度の全日出場を果たしてくれました。能力は1級品と言われながら、なかなか良い結果が残せない時期もありましたが一昨年の武井兄とのコンビで全日完走を果たしてくれたことは記憶に新しいと思います。今年からは競技馬を引退し、主に下級生を乗せる練習馬としてがんばってくれました。OB戦に出場後、離厩式を行い多くの方に見守られてメインフィールドに離厩しました。

レジェは僕にとって馬術部におけるモチベーションの全てでした。最初に乗った馬もレジェであり、よくサブにもなりました。特に北日では、目の前で見たレジェと武井兄の余力での満点走行に感動し「2年後には絶対レジェに乗って北日に出てやる」と決心し、そのためにがんばってきました。そして1年後、僕はレジェのチーフになることができました。念願は半分叶ったのですが、結局怪我のためレジェと1度も試合に出ることなく引退してしまいました。

大安売りのフレーメンは彼の得意技であり最大のチャームポイントでもありました。そんなレジェのフレーメンに元気付けられたことは何度もありました。北大ゆかりの馬であるレジェがいなくなってしまうのは本当に寂しいですが、まだまだ気持ちも若く元氣みたいなのでこれからもがんばってほしいと思います。レジェありがとう。

北凌号の離厩によせて

横山 勉 (H4卒)

92年卒部、現在静岡県在住の横山と申します。

北海道を離れて12年、最近はたまに子供と一緒に曳き馬に乗るくらいで、馬とは全く関わりが無い生活になってしまいました。まだ24条の新厩舎を訪れたことが無いことや、北凌号の離厩をもって馬術部から私の知っている馬がいなくなるということからも、時間と距離の遠さを感じさせられます。

また、東京に近いにもかかわらず全日学の応援にもかけつけず、OBとしては申し訳ない限りですが、北凌号の離厩に際してということで、ありがたく寄稿させていただきます。

北凌号が馬術部に来たのは92年、大学院在学中に初期調教という形で1年ほど乗ったかと思えます。当時3才(?)の彼は、体高は決して高くないのですが大きくて丸い尻が印象的で、性格も穏やかで扱いやすい馬でした。ただし、騎乗中は物見やその他ちょっとしたことをきっかけに豹変しやすく、下級生を乗せていると馬場中を走り回って止まらなくなることが度々ありました。

毎年送付される北凌の成績を見ても、馬場はまあまあだが障害は反抗があるという印象があり、この辺りは精神面での初期調教の問題だったのだろうと申し訳なく思っていました。そんな中でも、3度の全日学総合への出場、うち1度の完走まで育てて頂いた後任調教者の方々には並々ならぬ努力があったのだろうと思うと共に、少しでも自分の関係した馬がそれなりのレベルまで成長したことを嬉しく思いました。

調教や成績についての詳細は、当時の部報や今回の特集、また後続の調教担当者の方々が書かれることと思いますので、あとは北凌とは関係なく現役の皆様に参加になればということで書かせて頂きます。

現役として一頭の馬を調教できる期間は限られています。全日学を目指す馬であれば次の全日学まで、新馬調教をする場合であれば代替わりするまで、というのが基本的なパターンでしょうか。2年間同じ馬に乗れる場合もあるし、逆にどの馬に誰が乗るのかを固定しないこともあるかもしれませんが、とにかく時間は限られています。

また、人・馬の育成をスケジュール立ててくれるコーチがいない中で、限られた時間で結果を得るためには、OBその他に相談こそすれ、最終的にはミーティング等を通じて全てを自分で計画・運営しなければなりません。

まずは、与えられた期間の終了時点でどういう状態にありたいのか、「理想≒夢」を持つこと。「理想」は、現状では困難なレベルに大きく持って構わない、というよりは大きく持つべきでしょう。

「全日学で優勝」では理想として欲張りすぎ?そんなことは決して無いでしょう。現に昨

年の全日学で、前田君は2回走行の1走目は満点で帰ってきました。今後エルグレイ号に乗る人はもちろん、他の馬に乗る人も、昨年は憧れのまなざしだった下級生も、不可能ではないという実感が持てたのではないのでしょうか？

長い期間での最終的な「理想」が定まったら、その実現を可能にするための、いくつかの期間に区切った現実的な「目標」を立てましょう。

全日学で優勝するという「理想（夢）」を実現するためには…。例えば、北日予選で権利を獲得するという事は一つの最低限の「目標」になるでしょうし、権利獲得後の秋にどうレベルアップするか、また権利獲得のためには春から月毎に続く各種競技会でどういう状態にあるべきか、どういう結果を出すかも「目標」になるでしょう。そして各段階での「目標」をクリアしていくためには、具体的な練習の「計画」が必要になってきます。

これらの「理想・目標・計画」は、できれば頭の中で考えるだけでなく形に残しましょう。文字として形にすることで考えがより整理されるからであるのと、人は忙しい中で物事が予定通りにいかないと、都合よく忘れて、うまく適応してしまいがちだからです。

難しいことを簡単に書きましたが、北大馬術部のように、さまざまな面で決して恵まれているとは言えない人馬の環境で、全日学という大きな「理想（夢）」を現実にするということは、文字通りとても難しいことなのです。

そんな中、段階的に「目標」を立てて計画的に進めると、成り行き任せなのでは、得られる結果は違ってくるはずですし、例え結果として「理想（夢）」がかなわなかったとしても、終わったときの達成感の大きさ・後悔感の少なさは異なるはずですよ。

全日学を目指す場合を例にしましたが、新馬調教にも通じることだと思います。また、馬術部以外でも、学部での研究・就職後の仕事の中でも大切なことだと思います。

学生馬術をできる期間は今だけですし、多くの人にとってこれだけ集中して馬術というものに打ち込めるのも今だけです。最後に気持ちよく終われるよう、馬術部をやった良かったと思えるよう、思い切り挑戦して下さい。

最後に。

偉そうに書きましたが、現在の私自身が物事を計画通りに進められなくて困っているのです…。今回のこの短い原稿でさえ、提出期限を守れずに編集担当者に迷惑をかけました。この場を借りてお詫び申し上げます。

ハギノレジェンド論

西村雅夫

レジェンドの入厩当時を知る者として筆を執ってみたのだが、当時と今と印象は全く変わらない。競走馬上がりたてのくせにどの馬よりも肉々しており、去勢する前から普段は大人しく、そしてやっぱり入厩日から意味も無くフレーメンをしていた。時は経ち、離厩式の際に久々に彼に跨らせてもらったのだが、むちむちボディとピカピカの毛づやは健在ながら、突然ビビって走り回る姿はとても部内最古参とは思えない、入厩当時の新馬そのものだった。

彼は「おぼっちゃん」だったのだと思う。

僕の現役当時、「おじょう」と呼ばれる馬がいた。僕が知る頃にはもういい歳になっていたが、少しわがままを見せながらも気高くこ一番で頼りになる姿は、お嬢様の名に相応しく思えたものだった。

片や「おぼっちゃん」にはどこか頼りなげな響きがある。彼は父も母も弟も妹もみんなハギノらしいからきっと筋金入りの御曹司に違いない。幼い頃から周囲からもてはやされ大事に育てられてきたのだろう。そのせいか育ちの良さを感じさせるが、どこか甘っちょろく、なかなか本気を出してくれない。そんな姿にやきもきさせられた部員も多かったのではないだろうか。

彼は「アイドル」だったのだと思う。

彼が苦手な人はあまりいない。天性の親しみやすさとキラキラした瞳は僕らのハートを掴んで離さない。どちらかと言えば男子より女の子に人気があるところもアイドルだ。アイドルだから何をしても許される。歌やダンス、でなく障害飛ぶのが下手だって、それでもファンは付いてきてくれる。

アイドルはちょっとバカっぽい方が親しみやすい。彼の澄み切った瞳と整った顔は知性を感じさせなくもないが、やはり何も考えていないだけに思える。それでいて人気者。少しジェラシーを感じてしまわなくもない。(決してレジェンドがバカだと言っているわけではないんですよ、彼はやれば出来る子なんです！)

レンズを向ければカメラ目線、でも一通り愛敬を振りまいた後は案外そっけない。みんなの人気者だけれど、決して誰か一人だけのものにはならない。やはりアイドルだ。

離厩式というと、どこか悲しさ、寂しさを感じさせるイベントだが、彼に関しては最後まで笑顔が絶えないものだったように思う。13年もの間馬術部に在籍し、誘われて乗馬クラブに移るのだから、それが安心の理由かもしれないが、どこへ行っても彼は可愛がって貰えるだろうと誰もが心の中で感じていたからなのかもしれない。新天地でもすぐに会員さん(多分女の人)のハートを掴み、大して酷使もされずのんびんだらりと余生を送っていく姿が簡単に目に浮かぶ。何も考えていないようできて、その辺は突に抜け目ない。それを嫌味なく自然にやってしまうのだから、これはもう天性の資質というしかない。うらやましい限りだ。

「走るというより飛ぶ感じ」というのはある競走馬を騎手が評した言葉だが、それを聞いて思い出したのはレジェンドのことである。知らず知らずのうちに伸張速歩になっていたとき、高さ 80cm の障害なのにその 1m くらい上を飛越したとき、初めて彼と森を疾走したとき、彼には日本一(まさにレジェンド)にもなれる資質を持っているんじゃないかと何度か心踊らせた記憶がある。僕らが信じていた才能の全てが発揮できたのではないだろうが、それでも馬事公苑に何度も足を踏み入れてくれた。名馬ではなかったかもしれないが、きっと皆の記憶に残り続ける馬だろう。そんなレジェンドに多少なりとも携わっていた幸せを改めて感じつつ、あの抜群の乗り心地を思い返している。乗っているときも降りたあとも、常に楽しませてくれる馬だった。おつかれさま。

青春

亀山 巖(97 年卒部)

北凌号との思い出を綴らせて下さい。

94 年の春、私は 18 才でレジェンドと出会いました。第一印象は貴公子。馬齢 8 才の艶々した美しい鹿毛で、蹄冠部に細い白輪が有るのみの全身一色。白斑も無く整った顔にトレードマークの背い無口が良く似合っていたのを覚えています。素直でおとなしく、愛嬌があり誰にも愛される馬でした。中ほどの背丈で丸々とし、冬にはぬいぐるみのような毛に覆われ、深く純粋な瞳で見つめられると微笑まずにはいられない、そんな雰囲気を持っている馬でした。

レジェンドの入厩は 92 年、横山先輩が初期調教をされたと同っています。私の入部当時は 4 年目の西村先輩がチーフとして初の北日本を目指されていました。まだまだ若く気が張り気味の敏感な新馬でしたが、バネがあり歩様も良く当初から将来を有望視されていました。その夏北里での北日後、代替わりで 3 年目の鶴見先輩・橋木先輩が乗り継ぎ、さらに翌年帯広での北日を終え当時 2 年目の私がチーフに指名されました。

北海道の透明な空気の中レジェンドと歩いた構内の四季は本当に美しく、こうやって思い出すとどうしても胸がつまります。金色に黄葉した 13 条の銀杏並木。純白の雪景色とレンガの校舎。まだ肌寒い春の霞。まぶしく青い新緑の木々。隆々と立つ夏のポプラ並木と先に広がる農場の牧草地。その朝馬配の後輩と楽しく笑いながら、時にはレジェンドと 2 人で。夕暮にはモデルバーンで絵葉書の風景の中、レジェンドを微笑み眺めながら感じる風の心地よさ。生涯忘れることのない貴い思い出の、レジェンドはその中心にいます。

新しいことが始まると踊るような心持で入部した馬術部で、レジェンドとの 2 回のシーズンを終えると私は 22 才、レジェンドは 12 才になっていました。人生の大切な時期をレジェンドと一緒に全力で過ごせたことを誇りに思います。私の青春は馬術部にあり、レジェンドは私の青春そのものでした。

レジェンドと組めて本当に良かった。心の底から感謝しています。本当にありがとう。レジェンドがこれからも多くの人に愛され、ずっと長生きすることを心より願います。

北凌号の離厩によせて

武井 亮(H15卒)

北凌号の離厩に際し寄稿させていただきます。

私が北凌号に騎乗したのは02年秋からの一年間でした。当時、北凌号はすでに北大の在厩年数が最も長い馬でしたが、馬体はまだまだ若々しいものでした。その若々しさが性格の方にも影響してか、とても古馬とは思えないほどに興奮状態に陥ることもしばしばでしたが、普段は牛のようにおっとりしており、下級生の人気を集め、皆からかわいがられていました。昨日の離厩日に行われたOB戦で、北凌号は久しぶりの試合の雰囲気にかかなりの興奮状態にありましたが、その様子を見た西村兄が、「初期調教を担当した私の責任です」とおっしゃっていました。しかし、北凌号に騎乗された方ならきっと誰しもが、それはどうにもならない北凌号の気質だよ、と思うのではないのでしょうか。市川後援会長はその様子を見て、北凌号の人気の秘訣はここにある、ともおっしゃっていました。

私が、北凌号とのコンビで一番に印象に残っていることといえば、やはり最後の試合に当たります。03年の全日学になると思います。私と北凌号は本当に運よく全日学に出場できることになりました(興味がある方はH15年の部報をご覧ください、本当に運がよかったことが分かります)。この年は、宮櫛が開会式においでになるということで、各校一頭は乗馬での開会式への参加が義務付けられました。我々は総合馬術で団体を組んでおり、東京には4頭連れて来ていたのですが、どの人馬も乗馬での参加を敬遠し、結局私と北凌号のペアが開会式に参加することになりました。開会式での北凌号と私のパニック状態といったらもうひどいもので、あまりの興奮状態のため周りの人馬も巻き込んで、開会式の雰囲気を壊していました。その時の私は、4年間の馬術部生活、一年間の北凌号への騎乗の最後で一番のパニック状態を味わうことになったけど、これが開会式でよかった、いい思い出になった、とのん気に構えていました。ところが、北凌号はもつとすごい状態をまだ隠し持っていて、私はその状態を調教審査で知ることになったのです。その日の北凌号は準備馬場での動きも上々であり、演技序盤は何とか興奮状態をやり過ごしていました。しかし、演技中盤でB点にいた審判の鉛筆を落とした音に驚いてからは、もう演技どころではなくなり、馬場内を走り回り、調教審査を終えました。演技終了時には、主審から「その新馬で耐久大丈夫？」と声をかけられる始末でした(当時北凌号は16歳です)。学生の大会でなかったら、失権になっていたかもしれません。それでも、北凌号はその後の耐久審査、余力審査をクリアし、自身初の全日本完走を成し遂げてくれました。裏切られたと思ったら(もちろん主な理由は騎乗者の実力不足です)、次の日にはケロッとして頑張ってくれる、本当ににくめないかわい奴で、これもまた彼の人気の秘訣なのです。

そんな北凌号も05年で18歳を迎えました。私は現在も札幌にいますので近くで北凌号をみてきましたが、歩様が悪くなることが多くなり競技馬生活を引退せざるをえなくなりました。今後は石狩市の乗馬倶楽部メインフィールドで余生を過ごすこととなりました。北凌号の気性から多少心配な所はありますが、持ち前の乗り味の良さですぐに人気者になることでしょう。今後も人に愛された環境の中で過ごしてもらいたいと心から願います。最後になりますが、北凌号の健康な余生を願って

この文章を終わらせて頂きたいと思います。



武井兄と北凌号

北凌号 主な戦績

平成8年

北日本学生馬術大会 総合馬術競技 第19位 亀山兄

平成9年

北日本学生馬術大会 総合馬術競技 第5位 亀山兄(全日学出場)

平成11年

北日本学生馬術大会 総合馬術競技 第15位 大崎兄

平成12年

北日本学生馬術大会 総合馬術競技 第4位 山本兄(全日学出場)

平成13年

北日本学生馬術大会 総合馬術競技 第11位 山本兄

平成15年

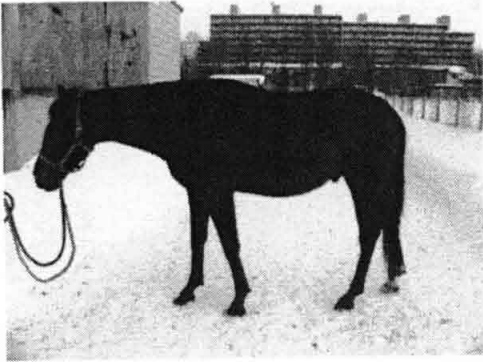
北日本学生馬術大会 総合馬術競技 第15位 武井兄(全日学42位)



離脱式にて

◇入厩報告◇

厩 北奏(ビバホリデイ)厩



騾 サラ 鹿毛
平成14年4月4日生
北海道白老町産
父 バブルガムフェロー
母 ローズサッシュ
平成17年8月11日入厩

入厩報告

一色 真明

北奏号は8月11日にチャンピオンズファームより入厩しました。普段はとても落ち着いており、障害の飛越センスの高さが感じられることから、今後の活躍が非常に期待されている馬です。

赤ひげ

で

よくコンパをやります。次のコンパが楽しみだ。

札幌市北区北22条西5丁目2-5

TEL 707-5076

◇八木正巳氏追悼特集◇

昭和38年卒部の八木正巳氏が2005年8月3日、日勝峠にて交通事故のためお亡くなりになりました。八木氏は生前、日本馬術連盟理事、北海道乗馬連盟の副会長、理事長を務め、北海道の乗馬界の中核的な存在として馬術の発展に尽力されてこられました。この度、故人の功績に敬意を表して特集を組むことといたしました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

八木正巳氏を悼んで

市川 瑞彦

部報編集委員から、八木正巳氏の告別式で私が読んだ弔辞を部報へ掲載させてほしいとの依頼がありました。喪主の八木多賀子さんにはご了解をいただきましたが、弔辞という性格上、文章として多くの人の目に触れることを意識して書いたわけのものではありませんし、許される時間や参会者層を意識していましたので、部報原稿としては内容が中途半端になっているくらいがあると思っています。しかし一方で、手を加えると弔辞とはずれてしまうため、あえてそのままとすることにいたしました。

弔辞

私が突然君の事故を知ったのは、テレビのニュースを見た君の2年後輩からの問い合わせの電話でした。状況から類推し、私は覚悟せざるを得ませんでした。

君をはじめて知ったのは、私が北大馬術部の2年生の春、新入部員として入ってきた30数人の中の一人としてでした。私と年齢は同じでしたが、入学年の違いから1年後輩になり、現在までそれを引きずることになりました。その頃の君には、他の新入部員とは少し違った印象をもちました。それは、めずらしく光星高校出身であったこと、それに少し斜に構えた感じと、ニヒルともとれる笑顔でした。先輩によっては、生意気な新生に映ったかもしれません。2年になり理学部植物学科に君が進学したときにも、私は初印象との怪い違和感を覚えたものです。

それ以後、君は技術的に上達し、同級生の信頼も得て、主将に選ばれました。3年生の頃の君にはいまでも私には少し申し訳ない気がしています。それは私の学年の選手層が厚く、「俺を試合に出せ」という要求が強く、技術のレベルだけで言えば、君の試合の出番が少なかったのではないかと。しかしそれでも、君は昭和37年の全国学生王座決定戦に東北・北海道地区代表として北大が出場したときには、3年生からただ一人選ばれて参加し、見事優勝に貢献されました。その他国立7大学定期戦(7帝大戦)の優勝などにも貢献されました。翌昭和39年に全国学生王座決定戦では優勝こそ逃したものの、主将として準優勝に導きました。また、北嬰号の調教に対する貢献も忘れてはいけないうでしょう。君はよく2年後輩の学年のことを、「新入部員を減らすためにし

八木正巳君を悼む

小島 武(S39卒)

君のあまりにも早い旅立ちに心が痛みます。

昨年暮れ(2005年11月)薬学50年の記念祭のおり札幌ビール園で市川、岡田、小栗君、水野君、斎藤先生、八木君、小島のメンバーでジンギスカンを賞味したのが最後になりましたね。君の訃報は小林則子さんからメールで第一報が届き、ついで市川前部長から弔辞を読みたいのでメールで内容を知らせよとメールが届きました。私は弔電を打たせていただきました。

改めて多賀子令夫人にお悔やみ申し上げると同時に、同時代を切磋琢磨した八木君に同期生としてここに記念の一文を書かせていただきます。

昭和35年3月末クラーク像の前で鶴見先輩、千葉先輩達が馬術部の募集をやっており、即座に入部を申し込みました。約50名ぐらいが入部したと記憶しております。

*天をつくポプラの森のしずけさよ。

*楡新樹昔のままにむせ返り。

*植物園昔のままに花サビタ

*馬の仔のふえてたのしや調馬せん。50人の馬仲間の心を私が歌った俳句です。

*荒馬に打ちまたがりてグランプリ。

定年時家内と札幌を訪ね俳句をつくる。

2000/11/末日

そのときも市川、八木夫妻、近藤君、牧童子さん、寺江則子さん、小島夫婦で旧交を温めました。この50人のなかで最後まで残った同期は、八木正巳、高木佑太、三浦清一郎、荒木伸也、田村雅英、小林(旧姓寺江)則子、横沢(旧姓入江)貴美子、小島武の8名でした。入部したときの主将は大場善明先輩でした。ついで千葉裕紀、市川瑞彦、八木正巳と引き継がれました。

1年次の馬場はポプラ並木の横にあり卒業まで全期間変わりませんでした。岡田光夫先輩が良くこられていました。馬場に砂をたくさんいただきました。1年次の7帝戦は京大でありました。2:3年次の帝大戦いは北大であり北大の連覇でした。4年次は九州大学であり審判のミスジャッジに泣かされ準優勝でした。八木君と対戦した九大の選手が反抗され「馬が立ち上がった」のを九大の審判が見逃し僅差で準優勝に終わりました。千葉裕紀さんからアイスクリームの差し入れがあり、7大学のみで賞味させていただきました。

ごいたが、なかなか辞めなくて困った」と言っていたが、この学年が現在でも馬に関わって活躍を続けているのも、結果的には君の指導がよく、非常に大きな君の貢献かもしれない。

最後の君の「一大快挙」と言うか、「一大暴挙」と言うかは、2年後輩の多賀子さんをゲット、昭和42年に結婚、多くの同級生・上級生を落胆の淵に沈めたことである。遠い親戚とは聞いていたものの、なぜ同級生の間で「マドンナ」と呼ばれた多賀子さんを、軟派上手とは見えなかった君がゲットできたのか、今でもわからない。聞いても、例のようにニヤツと笑って答ええないのかもしれない。

その後私は病気で入院治療の身となり、馬から離れたが、30年のブランクを経て北大馬術部長として、「馬の世界」に再び関わるようになったときには、君はすでに昭和45年頃から北海道乗馬連盟の仕事に携わっており、そのときは加藤会長の下で、理事長を勤めていた。今日までさらに齋藤会長、吉田会長と三代の会長の下でも、理事長を続け、中心的な担い手の一人として活躍してきました。昨年度からは副会長を兼務し、また日本馬術連盟の理事も勤めるなど、君の職責の重要性は、ますます高まってきているようにみえた。君の仕事ぶりは、私の目には責任感が強く、指導力を発揮するたくましく、頼もしい存在に映った。これがここ30年あまりの役所勤めで培われた能力と度量なのかと思うと同時に、君がいればと、安堵したものであった。しかし、これは何の犠牲もなく成し遂げられたものではなかったのかもしれない。あるとき、奥さんの多賀子さんが、有給休暇のほとんどが馬関係の仕事で使われてしまうと、恨めしそうに言われたときには、怠けていた私は言葉に詰まったのを憶えている。若い頃から君は、喘息や腰に問題を抱えていたような記憶があるが、最近試合会場で飲む薬の量が多かったのも気にはなっていた。

いま私は、入部のときの君の印象が間違っていたのかもしれないと思いはじめており、多くの質問をしたいという思いに駆られています。ニヒルともとれるニヤツとした笑顔や斜に構えたような態度は、ただはにかみを表しているだけではないか。学生諸君からは、怖い先輩にみえるらしいが、植物を愛し、馬を愛し、家族を愛したやさしい男ではなかったのか。また、そろそろ北海道馬術連盟の仕事も、後継者を育てて軟着陸することを考えていたのではないかと。そして、お子さん・お孫さんを相手にゆっくり過ごしたいと考えていたのではないかと。

突然に、まったく突然に、私にはこれらのことを質問して確認するすべがなくなりました。ただただ今は、“長い間大変ご苦勞様でした。ゆっくりお休みください”と申し上げるしかありません。謹んでご冥福をお祈りいたします。

2005年8月8日

北海道大学馬術部後援会会長

市川瑞彦

岐路全員で読売新聞社により大場先輩に報告いたしました。本音はただ食いが狙いでした。私と八木君の最終戦は全国学生馬術王座決定戦でした。2連覇が期待され金沢大学、大阪府立大学に快勝しましたが、鹿児島大戦でまたしても審判「川口宏一氏」のミスジャッジでおもわぬ敗戦の憂き目にあい、最終戦学習院大学に惨敗し2連覇の夢は消えました。この間東北大定期戦、帯広畜産大学定期戦、札幌鉄道管理局との定期戦、福島大学、早稲田大学、慶応大学、酪農大学などとの親善試合、北大主催による招待全日本女子戦等々数多くの試合に出かけました。

35年入部の時の部班運動の馬頃は、Ⅰ北斗号「ミストクシマ」、Ⅱ北潭号「ダイサンシラカワ」、Ⅲ北翠号「ミスエリザベス」、Ⅳ北嶺号「ヨシタカ」、Ⅴ北翔号、Ⅵ朝清号、Ⅶ幸運号、Ⅷ北楡号「ミスアップデール」だったと記憶しています。Ⅷ北楡号「ミスアップデール」には吉田先輩がよく騎乗していました。その後松本久喜部長、半沢道郎部長のお許しを得、日高実験牧場から下飯坂先輩のお世話になり北楊号、水堂号「北翔号:愛称チビ:昭和天皇の御馬水晶号の兄弟」をおろしていただき、また競馬場からコウセイ号「北瓢号」(恩田先輩が調教)及びナグサ号「北瓔号」を買いました。ナグサ号は八木君が面倒見ました。Ⅱ北潭号「ダイサンシラカワ」は女子専用のような馬で佐藤典子さん、高階さんがよく騎乗していました。Ⅳ北嶺号といえば大場大兄がよく乗っていました。熊本国体で中障害で優勝そこで恋人を見つけた「現在の奥様」。千葉裕紀さんが6段飛越で3着でした。北嶺号は試合が近づくとレンセンを示し、試合に備える不思議な馬でした。Ⅷ北楡号「ミスアップデール号」には斎藤善一部長がよく乗っていました。千葉幹夫さんが国体の総合で優勝されました。Ⅳ北嶺号には別途森本先輩が国体の6段飛越で当時の日本記録1メートル70をとび優勝されています。水堂号「北翔号:愛称チビ」には小島が騎乗し、ナグサ号「北瓔号」には八木君が乗り国体予選で中障害で見事ゴールしましたが活躍は次の世代に待つこととなりました。

大場大兄、千葉裕紀、市川、八木正巳、滝沢南海雄、小栗君と続いた北大に対し帯広は中曾根、鷲田、中原、都築君と主将が引き継がれていました。私の次年度の王座決定戦には帯広畜産大学が東北北海道地区代表になり大阪服部緑地公園にきました。都築君の主将の時でした。差し入れにいつきました。福島大学の神田君も印象に残る一人です。東北大学には横山君がいました。4年間の大きな出来事の一つは各部ごとに開いていた帝大戦を杉野目学長の許可をいただき総合7帝戦にしたこと。第一回大会は北大でした。馬術部30年史を大場先輩、吉田先輩、三浦君、小島で仕上げたことです。苗穂刑務所に何回もあしを運びました。岡田光夫監督に数々のお世話になりました。部室は農場の一角を借り2人で厩舎当番をしました。冬は水が凍るのでポンプアップを毎日しました。以上が八木君が青春を過ごした馬術部の時代でした。

多賀子令夫人に八木君が九州の帝大戦の時博多人形を貴女に買っていたのを思い出します。誰へのお土産だと皆に詰問されましたがついに白状しませんでした。馬をこよなく愛した八木君なんていそいでいってしまったのか。

多賀子令夫人御気を落とすことなくお過ごしください。彼からのメッセージを送ります。

千の風になって

私のお墓の前で 泣かないでください

そこに私はいません ねむってなんかいません

千の風に 千の風になって

あの大きな空を 吹きわたっています

秋には光になって 畑にふりそそぐ

冬はダイヤのように きらめく雪になる

朝は鳥になって あなたを見守る

夜は星になって あなたを見守る

私のお墓の前で 泣かないでください

そこに私はいません 死んでなんかいません

千の風に 千の風になって

あの大きな空を 吹きわたっています

千の風に 千の風になって

あの大きな空を 吹きわたっています

あの大きな空を 吹きわたっています

{よみひと しらず}

合掌ポブラ並木に想いを馳せて

高木 佑太(S39卒)

八木君が交通事故で亡くなったと聞いて、その早すぎる逝去に心から哀悼の意を捧げます。

八木君とは昭和三十九年東京オリンピックの年に共に卒業し、爾来四十有余年残念なことに一度も再会出来なかったことを今になって深く悔いています。小生が転勤族であった為ですが、退職してこれから旧交を温めたいと思っていた矢先の訃報なので、無念さも一入です。八木君安らかにお眠りください。

卒業以来一度も再会していないので、彼との思い出もすっかり希薄になりましたが、反面私の記憶には紅顔の学生乗馬服姿の八木君しかありません。日本経済バブルの黎明期で、共に貧乏な、バイトに明け暮れながらの練習と使役の日々でした。

八木君と言えば、やはり北涼号との係わりを思い出します。

道営競馬のトロッターであったグレースという上品な、明るい栗毛の馬が馬術部に来ました。その調教を彼が担当し、一人黙々とポブラ並木を背景に馴致していた姿が眼に焼きついています。

四年生になって国体の北海道予選大会で思いがけず私が北涼号に乗って六段飛越競技に挑戦し、三位に入賞して山口国体への切符を手にしたことを思い出します。

トロッターであった北涼号が短時間に六段をマスターし、見事にこなしたのです。

八木君の調教の成果とコンディションの仕上げ上手に感服したことを今も鮮明に覚えております。

きっと八木君は今も天馬となった北涼号に跨って、颯爽と天空を駆け巡っていることでしょう。

合掌

さようなら 八木さん

小林 則子(S39卒)

浦河の JRA の施設を中心に「2005年日高エンデュランス馬術大会 IN うらかわ」が、8月7日に開催される時、前日の8月6日、八木さんは奥さんの多賀子さんと一緒に、浦河に来られる予定でした。親しい後輩でもある多賀子さんと一緒にの久方ぶりの再会を、本当に心待ちにしていました。その3日前の8月3日の夕方、多賀子さんの悲鳴のような『おとうさんが死んでしまったの・・・』という突然の訃報を聞いたのです。

八木さんとの再会は、前年の「2004年日高エンデュランス馬術大会 IN うらかわ」の会場でした。その年3月に私は退職して、4月から住まいを、ふるさとの浦河に移し、田舎暮らしを始めていたのですが、その馬術大会の会長が浦河在住の鎌田さん(昭和28～29年馬術部主将)でした。大会の運営にあたり、私は手伝い探しの網にかかったようで、鎌田さん直々に、手伝いを頼まれました。大学を卒業して以来、「馬」とはまったく縁なく暮らしており、「エンデュランス」という競技名すら知らなかったのも、手伝いをと言われても、何の役にも立たないだろうと躊躇したのですが、「通信」係だということで、馬術大会で「通信」とは、何をするんだろうとの好奇心に駆られて引き受けました。

大会会場に行き、そこで、ばったり八木さんに会ったのです。「会う」のは当然で、彼は北海道馬術連盟から派遣されて、その大会の上訴委員として毎年参加していたのです。彼は大学の卒業以来ずっと馬術とかかわり、北海道の馬術界で活躍していたのです。私にとっては思いがけない再会でしたので、思わず奥さんの消息など、もろもろ聞きだしたり、鉄砲玉のように話をしたのですが、彼は相変わらず、一言二言の受け答えと、あの独特のニヤリという笑みを返すだけでした。でも来年は必ず、奥さんの多賀子さんと一緒に来てくれることを、約束してくれたのでした。

39年卒の部員は8名、彼は私たちの期の主将でした。私は馬術部員としては落ちこぼれで、女子学生がとてもしない時代でしたので、馬術部のおまけのような存在でいいか、上手にならなくてもいいかと…。でも男子部員の競技にかける闘争心は、目を見張るものがありました。当時大場先輩から千葉主将、市川主将と続いていた時代、とにかく「北大馬術部あり」という「強い時代」でしたから。そんな雰囲気の中で、八木さんは私たちの期の主将に選ばれました。彼は寡黙な人という印象だったので、他の同期の人に、「なぜ彼が主将なの？」と聞くと「男が惚れる男というところかな！」と。その後、馬術部のマドンナといわれた、2年後輩の八木多賀子さんを射止めたのも、その魅力に、彼女がはまったのでしょね。

卒業後、お互い札幌に住んでいたこともあって、多賀子さんとは、よく行き来していました。彼は卒業後、高校の教員をしたあと、札幌市役所に入り、「緑のセンター」での仕事が長かったと思います。私には、彼が植物を育てることが好きだというイメージは、ちょっと、ぴんと来なかったのですが、自宅に伺うと、植物にあふれていました。私が自宅の庭を作る時に、庭園会社を紹介してもらったのですが、その社長さんの、八木さんに対する厚い信頼が伝わってきて、あらためて、彼の誠実さを垣間見る思いをしました。多賀子さんとは、お互いの子供のことなど、よく消息をやり取りしていたのですが、3人の男の子の後に、女の子（京子さん）が生まれ、その年の年賀状に、『ついに生まれた女の子！』と添えられていて、八木家の喜びの大きさと、豊かさを感じたものです。

彼の訃報に接したとき、最初に思い浮かんだ言葉は、『一期一会』です。2004年のエンデュランス大会が最後の出会いになってしまいましたが、あの時のニヤッと笑った顔が、私の記憶に永遠に残るに違いありません。 さようなら 八木さん！

◇OB寄稿◇

「みんなの夢を乗せて」 全日本畜戦記

高野文彰 昭和41年卒

小栗との2人3脚

「高野かかとを下げる」「馬の口との関係をもっと柔らかく、ていねいに」「障害の前で推進を忘れずに」「そうーうまいよ！」小栗の声が朝もやの馬場に響く。40年前の北大の馬場に戻った様な錯覚を覚える。

現役時代の主将の頃の確かな障害馬術理論、馬にかける情熱は少しも変わることがなかった、ただ1つ違うのは、ほめ方がうまくなったことだろうか、厳しい指導者だった彼が別人のように優しいコーチとなった。

彼が毎朝の練習に来てくれるようになったのは2005年の春からであった。主戦馬であったテキーラ号を事故で失ってからの2年間、カルバドス号は伸び悩み、拒止が多くなった。新たに入手したヴィクトワール号も、口向きがなかなかできず調教に行き詰まりを感じていた時、彼から「練習を見てやろうか？」との申し出があった。

2004年夏にひどい落馬をして、その前後の記憶を失い、更に肩を痛めてほとんど1シーズンを棒に振り、迷っていた時だけに、素直に彼の申し出を受けることにした。

まず、彼が来てくれるようになって練習量が3倍になった。自分だけで乗っているとどうしても体がきつくなると早めに練習を切り上げたり、2頭乗るところを1頭でやめたりしていたのが、そうはいかなくなった。障害を飛ぶ数も今までの2-3倍になり、1ヶ月は身体がついて行かず毎朝来てくれる小栗には申し訳ないが陰ではたまに休んでくれないかなと願っていた。

また、ずっと一人で乗っていたため知らず知らずのうちに我流に陥っていた。姿勢の悪い点などを細かに具体的にわかりやすく指摘してもらった事も大きな変化であった。

例えば「かかとを下げる」といった指示は、とてもわかりやすく、直るまで根気強く指摘してもらったおかげで飛越姿勢は見違えるほど安定してきた。

さらに障害の高さを馬と乗り手の表情を見ながらきめ細やかに調整してくれたことにより拒止の数は極端に少なくなり、それと共に落馬の数も激減した。

練習を通して何度も馬術論を話し合った。私が学生時代に理解していたイタリー式とはずいぶん違っていたことを発見した事も大きな収穫であった。全日本の試合を前にイギリスで馬術留学を続ける近藤喜十郎兄が励ましに訪れてくれた。彼を交えて3人での尽きる事のない馬術論議は40年の時間を忘れさせるものであった。

こうした練習の積み重ねは、次第に成果を上げ、無理なエントリーをせず、出たい競技を1ランク下のレベルで我慢したこともあって2005年の成績は12種目エントリーして11個のリボンを獲得することができた。テキーラ号が逝ってからここ数年は、年間数個のリボンだけだった事を考えると格段の進歩である。

八木正巳さんの言葉

「高野全日本に出ないか？」と電話があったのは道馬連副会長を務める八木正巳さん(昭和38年主将)が交通事故で他界される前日であった。全日本が日本馬術連盟の公認大会のポイント制になってから登録馬の少ない北海道でポイントを取って権利を獲得することは困難になっていた。八木さんの日馬連への働きかけが実を結んで、各地域で3頭の推蔦枠のワイルドカードが認められた。しかし、せつかく認められたのに誰も行かないと来年からこの制度も無くなるかもしれないと懸念されていた。

輸送費など金銭的負担も有り、また110cmのクラスに出るため静岡まで行くのかとためらいもあり、「一晩考えて明日連絡します」と答えて電話を切った。

今、考えても何であるときに即答しなかったかと悔やまれる。返事をしようと思った時、八木さんはもう帰らぬ人となっていた。

それに応える意味でも、がんばらなくてはとの思い、「主人の分もがんばってきてね」との八木多賀子さんの言葉を胸に静岡へと向かった。

大場善明先輩の励まし

大場先輩は北嶺号で熊本国体優勝と言った伝説の先輩である。現役時代も含め、ほとんど接点なかったが、なぜか時々メールをいただくようになっていた。時折、送る試合の結果にいつも適切なアドバイスを頂いていた。

特に全日本の出発を前のメッセージは、試合に臨む心の支えとなった。

「並いる全国からの猛者を相手に気負うことなく初舞台の愛馬をいたわる気持ち忘れず試合に臨むように」との言葉が、本番の前に輸送熱で悩んでいたヴィクトワールのスタミナ配分の大きな指針となった。

河合、黒沢、八木澤、同期生の応援

試合の会場は静岡県の掛川にあるヤマハつま恋乗馬クラブであった、会場から20分ぐらいの磐田市には同期の河合、黒沢の両兄が住んでおり、3日間連続で奥さんと共に、また東京からは八木澤夫妻が、茨城から尾崎哲活君(平成12年)が応援に駆けつけてくれた。にぎやかな応援団は試合だけでなく名物のウナギ昼食会など心身ともスタミナ増強の力となってくれた。彼らの存在は心休まるものがあり、平常心で試合に臨むことができた。

小野ファミリーとの同行

今回北海道からは乗馬クラブメインフィールドの小野ファミリーと一緒にあった。

小野さんのおじいちゃんは我々が現役の時代に可愛がっていただき、その伝統は今でも続いている。卒部した若いOB達が乗せてもらっており、今回お孫さんの辰典君が乗った馬「ファンキーバブル」は川崎洋史君(平成11年主将)が手塩にかけていた馬である。

同じ競技を戦う仲間の存在は大きく、5日間寝食を共にし励まし合えたことも良い思い出であ

った。

輸送熱

約30時間を超す輸送の後、掛川に到着。「お疲れさま」とヴィクトワールに好きな人参を差し出したが見向きもしない。いつも食欲旺盛な彼女にしては珍しく、あわてて体温を測るとかなり高い、すぐ獣医さんに連絡し注射をしてもらったが最悪の場合、「試合はあきらめないといけない」と聞き暗澹とした思いに駆られる。

とにかく、出来るだけの手当をして様子を見ることにする。獣医さんの熱心な治療のかいがあって、微熱は残ったが幸い少しずつ快方に向かい、なんとかフレンドシップに参加できるまで回復してきた。フレンドシップは今まで見たことのない障害5個だけ軽く飛んで、後は会場の雰囲気を見せる事に重点を置いた。

試合開始

9月17日予選競技 標準障害

芝馬場の競技場に並べられた障害はとでもきれいで、さすが全日本と思わせるものであった。参加頭数は57頭。走行が終わってみると満点は25頭で全日本とレベルの高さを痛感させられた。ヴィクトワールはとでも初舞台とは思えない落ち着きと旺盛な前進気勢で次々と無過失で障害をクリア、最終障害にさしかかる。しかし、連続障害を3歩で飛ぶところを2歩で行ってしまい、さすがに届かず後肢で落としてしまう。気合いが入りすぎ、ついつい追ってしまった人間のミスであった。

1落下では全く勝負にならず28位であった。しかしながら一度会場での走行を経験するとずいぶん気分は楽になった。

9月18日予選競技 スピード&ハンディネス

ヴィクトワールは、まだ微熱が残っている。下見をしながらコース取りを考える。勝負に出るなら3回小回りをしなければならない。どうしようかと思いついて悩んでいた時、ふと大場先輩の言葉が思い出され、無理をせず、予選通過だけを考え決勝にすべてをかけることにする。

はやる心を抑え勝負に出ず、ゆったりとしたコース取りで満点を目指す走行を行い、減点ゼロでゴール。順位は昨日より少し良くなって、20位で2日目を終わる。

9月19日 決勝競技

57頭の参加の内、上位7割の39頭が決勝に進んだ、成績の下の人馬からの走行となり、18番の出番で競技に臨む。不思議と気負いもなく、応援席の河合、黒沢両兄と視線を交わし競技場に入る。この日のために八木澤兄がプレゼントしてくれた拍車が足元で光る。

さすがに決勝競技、第一障害を除いて残りはすべて 110cmのフルコース、愛馬の熱も収まり安心して飛越を続けることが出来る。一試合ごとに安定感を増したヴィクトワールは流れるよう

な飛越を続け、3頭目の満点馬としてジャンプオフへと駒を進める。12頭の満点馬でのジャンプオフは思い切って最後の勝負に出ることにした。第3障害を斜めに飛び第4障害は障害の左寄りを飛んだ後すぐに左回転、最終障害も思い切った斜め飛びでゴールを駆け抜ける。今の調教段階ではぎりぎりの走行が全てうまくいった満足感で結果を待つ。

「北海道乗馬連盟所属 高野選手乗馬ヴィクトワール号 第5位。」予選競技では全く目立たなかっただけに、10代、20代、30代の選手に混じって唯一60代の選手の登場に観客からのどよめきが伝わる。

ウイニングラン

秋晴れの光を受けて走る、さまざまな想いで胸がいっぱいになる。

テキーラ、小栗の指導、八木さん、大場さんの言葉、応援にきてくれた河合、黒沢、八木澤、尾崎諸兄、共に戦った小野ファミリー、ヴィクトワールとの出会いをつくってくれた競馬会の春田恭彦兄、中島又男氏。中村晃史君、イギリスから応援してくれた近藤兄、十勝で朗報をまつているカルバドスと奥方、きっとみんなの想いが一つになってこの結果が出せたのだと思う。

ほめて育てる

帰ってから小栗と今年1年を振り返って話をした。

彼から何で今年こんなに良い成績だったと思うとの問いかけがあった。

うーん、まず最初は「小栗の馬術理論」、「情熱あふれる丁寧な指導」、それに少しは「私のやる気」と、「ためらわず吸収した私の素直さ」、この4つかなと言うと、

小栗はしばらく間をおいて、

「もう一つある」

それは「高野は俺が思っていた以上にうまかったことだよ」と言った。

40年たって、本当に人をほめて育てるのがうまくなった。



全日本障害馬術大会『観戦記』

黒澤道雄 昭和41年卒

昨年の中月中旬に静岡県掛川市のつま恋で行なわれた全日本障害馬術大会にて、昭和41年卒業の高野文彰兄が5位に入賞するという快挙を成し遂げました。

その試合の観戦記を私達同期で交わしているメーリングリスト(ML)を抜粋するという形で報告させていただきます。

私達のMLは、連絡事項や近況報告は勿論のこと短歌が飛び交うこともありましたが、ただ短歌というだけあって長続きはしませんが…いろいろと楽しいやりとりをしています。

でも、ここ1、2年の間に同期の山村兄、加藤兄、高橋兄の奥さん、そして2年先輩の八木正巳さんと…不幸なお知らせが続きまして悲しい想いをしていました。

元気を失いそうになったこの時期での高野兄の快挙にみんな元気をいっぱいもらいました。

今大会は、「輸送熱で試合には出られないかもしれない」という高野兄からのメールでドラマはスタートしました……………。

【件名】輸送熱を出してしまいました

皆様 今日の静岡は大雨でした。
ヴィクトワールは輸送熱で調子が悪く出場が危ぶまれています。
熱が一時40度を超え今は38度台で少し下がりましたが心配です。

明日37度台に下がっていればフレンドシップで軽く乗って様子を見ようと思ってます。もし出られたら試合は10時から、私の出番は40番台なので11頃です。

食欲は旺盛で食いつぶりだけを見てると仮病じゃないのと言いたくなりますが、先の長い馬なので無理せずに行こうと思います。

せっかく応援にきていただいても勇姿をお見せする事が出来ないかもしれませんが、その時はあしからず。またの機会をつくりますのでご勘弁ください。

高野文彰

【件名】ご安心ください

皆さん 高野兄からヴィクトワール号の体調が思わしくないとのメールが流れ心配されたでしょうが、熱もだいぶ下がりました大丈夫のようです。

本日のフレンドシップ競技(人馬を会場に慣らすための障害飛越トライアル)で見事「満点」の出来でした。安定した飛越ぶりは見事なものでした。

小生、高野兄のメールを見て心配になり、掛川の会場に急行しました。丁度、八木澤夫妻もみえたところで、高野兄はヴィクトワール号に跨り準備運動中でした。

フレンドシップ競技を終えた時点でまだ微熱がありましたので油断はできませんが、一晩の休みで回復が期待でき、明日からの試合は活躍してくれるでしょう！

今夜は、高野兄、八木澤夫妻、小野さんの息子さん親子で「前夜祭」を行なうとのこと、騎手に明日の影響がないことを念じてます。
(小生は仕事の都合で「前夜祭」には残念ながら参加出来ませんでした)

明日は、河合夫妻ともども静岡・磐田組も応援にはせ参じます。
高野・ヴィクトワール号の健闘を祈ってます。

黒澤道雄

【件名】惜しかったです！

皆さん いよいよ、全日本障害馬術大会の我らの高野兄の試合が本日、静岡・掛川をつま恋でスタートしました。

本当に惜しいことに、14番目の障害の1落下のみの減点4でのゴールでした。願望に障害を無理なく素晴らしく華麗な飛越でこなしていたのですが最後の障害で惜しくも落下してしまいました。応援した我々は、最後のトリプルの障害を残すのみで入賞間違いなしと思った瞬間の落下で本当に残念な思いをしました。一番残念なのは、騎手の高野兄だったでしょうが……。タイムも悪くなく、ミス無しのゴールでしたら7位以内の入賞であったのにと惜しまれました。(14位までが入賞です)

減点ゼロが57頭中25頭でしたので、順位としては28位でした。

河合兄より、最後の障害を飛越する直前に騎手・高野兄の頭に賞品のチラツキが邪魔したのではないかとのがった見解がありました。
(高野選手は全面否定でしたが……)

でも、熱を出して点滴処置を経ての、この見事な結果は賞賛に値する結果であったと思っています。応援に来た八木澤兄、河合兄そして小生は、お世辞抜きで安定した障害飛越を褒め称えました。

八木澤兄が撮影したビデオの映像が何よりの動かぬ証拠です。
(ビデオですから動いていますけれどもね?……)
きっと、このビデオを見て小栗コーチも喜んでくれるものと思っています。

明日の中障害S&Hの結果が楽しみです。

本日の試合を終え、明日、明後日の高野兄の健闘を期待すべく鰻やさんで英気を養いました。
まずは鰻の肝と白焼き(わさび醤油つき)を肴にしてビールでの乾杯をし、鰻重を美味しく頂きました。

いずれにせよ、明日、明後日と高野兄の試合がまだあります。
今日の試合を真近に見て、好成绩の期待を確信できました。

高野兄 健闘を祈っています。

黒澤道雄

【件名】決勝戦進出果たす！

皆さん 高野選手は中障害飛越Dで堂々の決勝戦への進出を果たしました！
本日の試合は、S&H(スピード&ハンディネス)で総タイムで競うものです。
高野・ヴィクトワール号は、本日も華麗に障害をこなしていきまして
ノーミス(落下・拒止とも全く無し)で見事ゴールしました。

総タイム(所要タイム+落下加算秒)で争うため、惜しくも入賞(14位まで)は逸しましたが、昨日より順位を上げ22位でした。

前日、食べた鰻の量がもう少し多かったなら、鰻のような急カーブの泳ぎに対応できる柔軟性をもらってタイムを短縮できたのにと考えた次第です。

でも、もし芸術点を加味されるとしたら、間違いなく入賞を果たしていたでしょう！
そのくらい落ち着きのある見事な飛越ぶりだったということです。

小野さんのお孫さんは、残念ながら2日とも失権してしまいました。

明日の決勝戦はタイムを競うことのない標準のルールで行われますので
高野・ヴィクトワール号もチャンスは充分にあります。
(同点1着が多数の場合は、ジャンプオフが実施されます)

高野兄 入賞目指してガンバ！

本日は後輩の尾崎君も応援に来てくれました。

黒澤道雄

【件名】やったぜ 5位入賞！

皆さん 我らの高野選手は中障害の決勝戦で堂々の5位入賞を果たしました！

決勝に残った39頭のうち、無失点馬は12頭でジャンプオフとなりました。
ジャンプオフでも高野選手・ヴィクトワール号は落ち着いて飛越し
優勝者とは、2. 3秒、3位とは1. 4秒差で5位に入りました。

ひいき目なしで本日の一番の安定した華麗な見事な飛越ぶりでした。
学生時代の飛越時の「癖」もすっかり無くなっていました。
小栗コーチの名指導と本人の努力の賜物でしょうね。

なにせ全日本で5位ですから、大したものですよ。
61歳での5位入賞は新記録ではないかと思えます。
赤いブレザーを着ての走行で、きっと選歴パワーももらったのでしょう。

表彰式後、馬術の関係の女性の新聞記者のインタビューも受けました。
きっと大きく取り上げられることでしょう。
応援団もよかったと書いてくださいと申し入れましたが女性記者はニヤリとするばかりで無視されました……。

当地に到着直後は、ヴィクトワール号が熱を出してしまい出場そのものが危ぶまれていたのですが、
それどころか5位入賞を果たして高野選手の喜びも大きいかと思っています。

そして、亡くなる前日に高野兄に全日の出場を薦めた八木先輩に対して
この5位入賞が何よりの供養になるかとも思っています。

高野兄、お疲れ様でした。そして再度「入賞おめでとう！」
お疲れのところ、明日は東京で仕事の打ち合わせがあるとのこと身体に気をつけて帰ってください。
そして、ヴィクトワール号まだ微熱があるとのこと無事の帰還を祈ってます。

応援団兼リポーター・黒澤道雄

【件名】高野兄おめでとうございます

高野兄 すごいものですね、ひたすら感心しております。

まだまだ挑戦を続けるとのこと、余り無理しないでほどほどに、との思いもあるのですが、鍛えぬいた身体が戦いを欲しているのか、と別世界の人のように感じております。私のように、運動といえればせいぜい月2回程度のゴルフで音を上げている者からみれば、ただただ驚きです。

黒澤兄 連日のレポート、本当に有難うございました。家族中で、メールが届くのを楽しみにしていました。1報で惜しい、2報で希望、3報でやった、と黒澤シナリオ通りの運びだったのではないのでしょうか。レポートを読み返してみると、段々盛り上がっていく筋書きになっており、高野選手がこれに応える、見事なものでした。写真も、選手以上に盛り上がっている応援団の意気込みが伝わり、いい雰囲気でした。食い意地、呑み意地の汚い小生にとって、料理の写真にビールの王冠8個が写っていたのは、八木澤兄当りのアイデアか、と拝察致し、笑わせて戴きました。小生がヴィクトワールの顔を誉めますと、次女は高野さん恰好いいわ、と若干嘔みあひませんが、楽しい時を過ごさせてもらいました。

梶山泰嗣

【件名】みんなの想いを乗せて！！

皆様 夢の様な1週間でした。

輸送熱で出場すら危ぶまれていた状態を考えると走行ごとに成長してゆくヴィクトワールに驚きの連続でした。旺盛な飛越意欲、初めての障害にも動じない度胸、落下しない注意力、リズムに乗った流れる様な走行、とても初めての全国レベルでの試合に出た新馬とは思えませんでした。

1日目のフレンドシップは体調も考え5個ぐらいを軽く飛んで様子を見ました。

2日目の標準障害は最終障害の連続を落下し28位、時間は早く落下がなければ7位ぐらいだったでしょうか、さすが全日本・・・25頭が減点ゼロでした。

3日目のスピハンにはやる心を抑え急な回転はいっさいせず、標準と同じリズムで満点の走行を試みました。減点ゼロでしたので少し順位を上げて22位で予選を終えました。

最終日は57頭参加した中から39頭が選ばれ決勝に臨みました。落ち着いた走行で減点ゼロ、いよいよ12頭による決勝のジャンプオフです。ここまで来られたので満足と思う気持ちともう一勝負、今の段階で無理なくできる

ぎりぎりの攻めの走行で5位で終わる事が出来ました。

他界される前日に「高野、全日本に出ないか？」と八木さんから電話があつて
始まった今回の全日本は八木さんをはじめ、多くの人の想いを乗せ、
それに後押しされエネルギーとなって飛越できた様に思えます。

毎朝練習を見てくれた、小栗の馬術に対する理論と情熱、
黒澤、河合、八木澤夫妻の連日の応援と励まし、おいしいウナギ、
イギリスに戻る前に練習を見に来てくれ、アドバイスをくれた近藤、
激励のメール、電話をいただいた皆様、
留守を守ってくれた奥方・悠子さん、カルバドス君、
本当にありがとうございました。

今年の試合にシーズンは終わり仕事も忙しくなります。
来年に向け精進を重ねていきたいと思ひます。

無事に愛馬が十勝に着いてくれることを祈つて。

高野文彰

学生割引あり



カットイントライ

北23条西5丁目山水ビル2F TEL011-747-1058

- 受付時間 AM10:00~PM8:00
- 定休日 毎週火曜日・第3月曜日

◇北海道大学水産学部馬術部◇

主将：坂井 慎哉

[活動内容]

現在北水馬術部はJRA函館競馬場乗馬センターにおいて、先生方のご指導のもと、平日は早朝の練習、土日祝日は一般の方・少年団と練習を行っています。

今年は本学からの移行生を加えたこと、試合に積極的に参加したことなどもあり、部全体の技術の底上げがなされたと思っています。北水は2年後期からの部活なので練習時間に限りがあり、なかなか試合で結果を出せるまでには至りませんが、努力次第でもっと上のレベルまで向上できるはずです。今後は、部員一人一人が目標を持ち、より一層上達できるよう頑張りたいと思います。

最後になりましたが、今後の北大馬術部のさらなるご活躍を、部員一同、心から祈っております。



[活動報告]

平成17年度の主な活動内容

4月

春休み合宿：函館競馬場にて5日間の合宿

岩手大学招待試合：坂井（3年） 予選一回戦敗退

5月

お花見会：乗馬センター馬場にて

6月

代替わり：生田前主将から坂井現主将へと代替わり

函館競馬開催

7月

北日本選手権：竹下（4年） 予選一回戦敗退

坂井（3年） 予選一回戦敗退

函館競馬開催

8月

夏休み合宿：函館競馬場にて5日間の合宿

函館競馬開催

10月

新人入部：移行生新規入部

山下杯（酪農大）：坂井（3年）	M級D障害	4位
三古谷（4年）	80cm障害	失権
宮下（4年）	80cm障害	失権
庄（3年）	80cm障害	5位
中井（3年）	80cm障害	失権
佐藤（3年）	60cm障害	3位
広瀬（3年）	ジムカーナ	6位
上田（3年）	ジムカーナ	9位

11月

学祭：揚げアイス屋「あげハイジ」を出店

◇卒部にあたって◇

● 小阪 梨奈(前主務、農)●

馬術部での3年半を通じていろいろな馬に出会い、またたくさんの人とも出会うことができました。ほんとに幸せな時間を過ごすことができました。今までどうもありがとうございました。

- 北日での「がっちり」は心に響きました
- 普段はおもしろいですが、時には下級生を厳しくしかってくれました
- ケーキバイキングで食い糧しましょう
- 女帝の中の女帝

● 利根川 正明(前バイト関係、農)●

4年間を振り返り、自分としてはとても有意義な時間を過ごせたと思います。色々大変な事もありはしたが、二度とこのような体験はできないだろうと考えています。

また、こんな自分に今まで付き合ってくれた上級生、ドンパ、下級生、OB、外部の方々、とてもお世話になりました。

現役は真摯な姿勢で、より良い馬術部を築き上げられるように頑張ってください。

4年間ありがとうございました。

- 自分の考えをはっきり持っている人でした
- 1のつく日にゲオに行くとよく見かけます
- 同じ授業にすぎず
- 練習量豊富

● 日野 恵介(前馬匹、獣医)●

実は僕は1年目のとき果たして4年間続けられるかという思いでいっぱいでした。正直何度もやめたくなったときもありました。でも、部活を続けて失うものはあるかもしれないけど、きつと取り返すことができる。部活を辞めてしまえば、それで失うものはきつと人生で二度と取り返すことができない。ただひだすらそのことを考えながら続けてきました。

多くの方に迷惑をおかけしました。OB 諸兄、先輩、同輩、後輩、顧問の先生方、関係者の方々…。言い出したらきつときりが無いくらい。いろいろと暖かく見守ってくださって本当に本当に、ありがとうございました。

「馬に乗りたいたけなのになんでこんなに馬に乗ること以外のことで悩まないといけないんだ」。正直そう思ったことも多々ありました。それでも得られたものはそれなりに大きかったと思います。部内や部外でのコミュニケーション、一最上級生として部活の運営の難しさ、責任等。多くのものを学ぶことができたと思います。

今の現役にもとにかく大事にしてもらいたいのはとにかく上級生であれ、下級生であれ言いたいことがあればできるだけ話し合える状態を作ることだと思います。僕は一番これを大事にしてきたつもりです。とにかく同級生同士にしろ、なんにしろ一方通行になってしまっただけはお互いに不満を持ち続けたままという状態に陥ってしまいます。しかも話し合えば解決できることでさえも。そんな状態でどんなに続けたところでモチベーションはあがらないし、周囲の人間にも悪影響を及ぼします。いい影響というのは周りに広がるのが遅いくせに悪影響は簡単に周りにつながります。自分達の気づかないところで周りの人達に悪い影響を及ぼしていることがきっとあるはず。気をつけてください。

最後になんだかんだいってつらかったことも含めてやっぱり楽しかった4年間でした。サラ、パワ、シーベも、本当にありがとう。。。

- 一瞬でその場を温める太陽のような人
- 卒部後もインナー変わらず…スバラシイ
- 卒部されてオシャレに気をつかうようになったけど、何かがズレている…
- 卒部してから少しおしゃれになった！？

● 前田 晋也(前主将、農) ●

馬術部に入った理由はもっと馬を知りたいと思ったからだと思います。

結局まだ知らないことだらけですが、馬術部でたくさんのことを学びました。
ありがとうございました

- 主将として一年間すばらしい働きでした。おつかれ様です。
- コンパでは他大学からも絶大な支持を得ています
- 四年間同じトレーナーだった
- 賃禄がある。達筆。でも馬体管理表が読めない…。
- まゆげ実は整えてるらしいです

満足の
味と量!

味の 福々亭

札幌市北区北20条西5丁目
TEL 746-6065

各種定食 650円~	昼の部 11:30~14:00
カシ~丼物 500円~	夜の部 17:00~24:00
定休日 土曜日	

10名様以上でお越しの方は、一割引します!

● 工藤 俊彦(前作業・企画、水産)●

水産ということで、2コ上の先輩達と一緒に卒部となりました。

思い返せば1年半という短い間でしたが、みんなとはとても多くの時間を過ごしました。

馬と真剣に向き合うことで生まれた馬への思い、みんなで協力してきたことで生まれた人との繋がり、今でも鮮明に思い出せる一つ一つの思い出、これら全てが宝物です。

先輩達には迷惑もかけたし、学んだこともたくさんあります。お世話になりました。

同期のみんなには迷惑かけるなあ…って思ってたけど一人そっちに残してきたから大丈夫かな。

1年生はこれからも変なギャグで部を明るくしつつ、上を支えていってあげてね。

最後になりますが、馬術部で関わった皆様には本当に感謝しています。ありがとうございました。

みんなの全日での活躍を期待しています。

—この裏切りものめ～

—いつもかたよっている

—aikolはもう三十路

—P野さんももう三十路

腹へ二様大歓迎

丼物各種500円～650円
バラかつ丼 カツ丼 牛カルビ丼 他丼物各種
定食各種650円～730円
回鍋肉 肉野菜炒め 子キンカツ 他定食各種
御満腹 御満悦! 北大生御用達の店!

北の食店 六宝亭

AM11:30～2:30 PM5:00～10:30
北21条西4丁目北大通り沿い



小阪姉(右から2番目)と北凌号



利根川兄と北旋風号



日野兄と北椎号



前田兄とエルグレイ号

◇部員紹介◇

3年目(左から、関田姉、林兄、一色兄、久保兄)



● 一色 真明(会計・車輛、葉) ●

来年は優秀馬匹賞を獲ります！

—は—どM

—ジャンに弱い、空気の読める北大のエース

— 一色兄がいるとジャンがたのしいです♪

—次の新入生にはなめられないように…無理か

—メガネを外すとけっこうハンサム

● 久保 裕道(主務、農) ●

「どんな毎日でも楽しみかかしてる 宝探したねもつと検索してみよう」(Love's Wonderland)

「贅沢すぎる宝探し 回り道なら見つけられる」(still in the groove)

「力を合わせればもっと楽しく走れる いろんな迷いも飛ばされて」(POWER GATE)

「先が見えなくても怖がらないで 自分史上最大の勇気振り絞ろう」(JET PERK)

「君も忘れないで必ず僕達は勝ち組の目がまだあるから」(PROTECTION)

「一度きりの人生楽しむべきだよ絶対」(New Sensation)

なんとなくお気に入りの歌詞を集めてみた。

今年も“Nana 色”に染まりながら頑張っていこー！

(ちなみに“メイドさん萌え♪”ver も考えたけど長くなったので没)

- いつからか標準語をしゃべる姿が見れやんくなった
- 代が替わってめっきり関西弁になった気がする
- 最近関西弁全開ですね。たまに意味わからん…。
- 関西弁の久保兄の方がマッチしてますね
- 最近はだいぶ丸くなったと思います。飲み会の話ですが。

● 関田 愛子(馬匹、薬) ●

毎日同じことの繰り返しでイヤになることもあります、一日一日を大切にしたいです。

- 最近さらにパワーアップした馬術部の姫(自称)
- 自分の意思を押し通す
- いまだにつかめない。心の中を知りたい。
- いつも眠そうですね。笑

● 林 宣隆(主将・北日幹事、農) ●

今年は日焼けに気をつけます

- 今や馬術部の顔。よき兄貴的存在。
- 今やリン様と呼ばれる北大の顔
- 馬術部の柱
- りんりん☆

2年目(左から、住江兄&エルグレイ号、池谷兄&北閃号、谷山姉&北椎号)



● 池谷 雅史(副務、水産)●

入部からはや2年。今年もこの部活にいるオレ……。んー変か？

—よくぞもどってきた！！

—歴代初の水産主将候補

—かわいいものにはやさしい

—言わせたがりやなエロ

● 住江 康晴(副将・バイト関係、獣医)●

目覚ましをかけずに思いっきり寝られる日は一年に何日もないことに気がきました

—最近の住江にたりないもの ——それは威厳。

—気弱だけど、なぜか一色だけには強気

—ワンテンポずれたリアクションがうらやましいです

—ため息をつかれる時が怖い

● 谷山 直美(後援会、農)●

二年生になってからは、けっこう家で寝るようになりました

—ドラえもんのようにおかしをだしてくれる

—部屋には自分の座るスペースとごはんを置くスペースしかないそうです

—カラオケの時は別人となる

—そろそろ大きくなろうかね

1年目(左から、山中、沖、谷口、吉村、山川、宮本、建部)



● 沖 暉(記録・馬備、水産)●

馬術部にいると独り言が増えると思う。閑話休題。10月になってようやく部活に慣れてきました。あと1年頑張ります。パッチリ函館に行きたいです。

- 部内で1番マイペースなネコチーフ
- 独自の世界を確立しています、きっと
- よく人を無視しますがおもしろい子です
- 猪狩2号だ...

● 建部 真宏(飼料・衛生、経済)●

我是日本人。我流利地能仿效。我尊敬着有的先辈。我也想变得他的。

- ドンパの中に先輩がいる苦勞人
- なんか0.5年生っぽい扱いをされている
- いつもT君にいじめられてかわいそうね
- おい谷口、おれに命令ばっかしてんじゃねえよ。by 小島
- ずっと妊娠3カ月が続いています

● 谷口 善彦(企画・ビデオカメラ、農)●

クールでシュールなナイスガイです

- ドンパの中に後輩がいるラッキーマン
- 人によくふるけど、自分にふられると以外に弱い北大のムードメーカー
- 口だけは達者。基本的にエロい。
- よく物見する。視線の先には女の子が...
- 良くも悪くもこの学年をまとめてね

● 宮本 亮(作業、獣医)●

エロくないです。真面目です。

- 目がエロい
- 目だけは武豊なのに～
- 1のつく日はフィーバー
- 大人。落ち着いてる??

● 山川 倫明(大会関係・部報、経済)●

もうのび太とは呼ばせないぞ！！

—舌出しは減点されちゃうよ

—近くにいと寒くなる

—酒にたよってその性格を変える二重人格。どっちも君だよ。

—酪農の女子からはのび太くと影で呼ばれている

● 山中 謙司(大会関係・部報、工)●

馬術部には珍しい工学部生です

—山中氏フォー！！

—山中氏。さぼり。堂々とさぼってる。

—実は朝の体操は手を抜いている

—エルグレイ大好き♡

● 吉村 誠司(薬品、獣医)●

勉強のしすぎに気をつけます

—朝はテンションが低いのに、練習が終わる頃には手がつけられない吉村ワールド

—夏から部屋に泊まりこむあなたは奇人？貴人？

—一年目で一番多く寝て、一番多く単位を取っている

—セントジョージをまわれる「馬」をめざしてくれ

有限
会社 **菅原写真商会**

パスポート写真

カメラ・カラープリント特急仕上

3分間写真

各種証明写真

北22条西4丁目 ☎ 716-2662

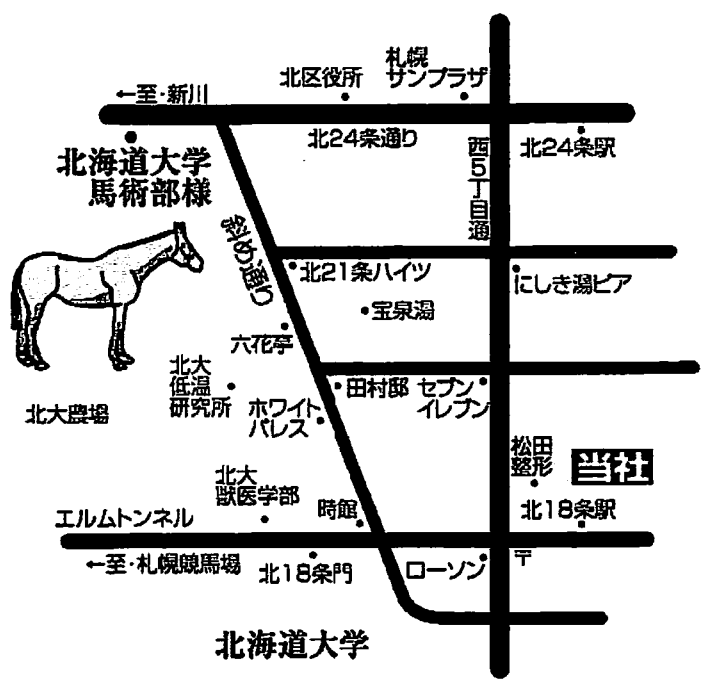
◇現役部員名簿◇

氏名	住所	電話番号	学部	役職
3年目				
一色 真明	北区北25条西5丁目2-15-503	090-8718-3233	薬	会計・車輜
久保 裕道	北区北22条西6丁目2-34-702	090-5648-7287	農	主務
関田 愛子	北区北21条西8丁目3-1-109	090-3692-9752	薬	馬匹
林 宣隆	北区北19条西7丁目2-20-302	090-6806-8661	農	主将・北日幹事
2年目				
池谷 雅史	北区北13条西1丁目10-2-208	090-6100-5086	水産	副務
住江 康晴	北区北16条西4丁目21-378-402	090-4693-8724	獣医	副将・バイト関係
谷山 直美	北区北22条西9丁目3-25-307	080-5595-6107	農	後援会
1年目				
沖 瞳	中央区北21条西15丁目1-16-224	090-4091-1438	水産	記録・馬備
建部 真宏	北区北23条西5丁目1-14-103	090-6907-3449	経済	飼料・衛生
谷口 善彦	北区北24条西2丁目3-15-201	090-6914-5396	農	企画・ビデオカメラ
宮本 亮	北区北24条西2丁目3-15-305	090-5040-8665	獣医	作業
山川 倫明	北区北20条西4丁目1-16-203	090-5959-1582	経済	大会関係・部報
山中 謙司	北区北21条西8丁目1-8-301	090-5979-0995	工	大会関係・部報
吉村 誠司	北区北23条西8丁目1-10-401	090-5944-6486	獣医	薬品

貸家・下宿・貸間・学生会館・貸駐車場・事務所・店舗・賃貸売買・仲介

アパート、マンション

…北大周辺は、まかせて！



(取扱エリア)札幌市全域および近郊

info@estation-h.co.jp

家賃交渉、費用値引き、条件交渉etc.何でもおまかせ！
ご相談の時に「馬術部の紹介です」と、お伝えください。

 **有限会社 エステーション**
 札幌市北区北18条西3丁目21 セイコーマート向かい 1F-Dビル1F
 Welcome to Estation ☎ 011-709-8850 📠 011-709-8851

MEIJI



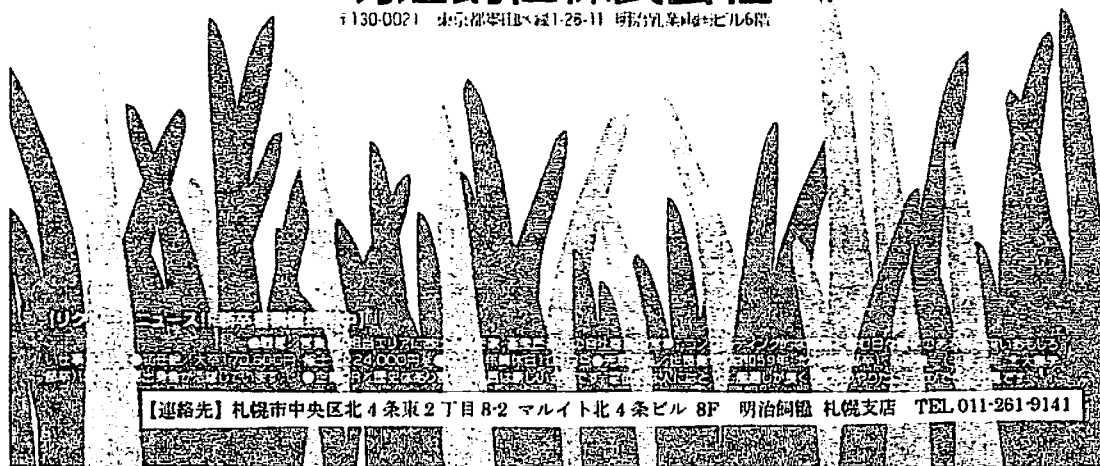
時代の大きな転換期を迎える中、酪農・畜産分野においても

効率だけでなく、安全な生産物の提供、
地球環境への配慮が求められています。

当社は設立以来一貫して、良質の飼料と優れた飼養管理技術の提供を通じて
豊かな食生活の向上に貢献しています。

明治飼糧株式会社

〒130-0021 東京都墨田区江1-26-11 明治乳業ビル6階



【連絡先】 札幌市中央区北4条東2丁目8-2 マルイト北4条ビル 8F 明治飼糧 札幌支店 TEL.011-261-9141

頑張れ！ 北大馬術部

北大生協も
北大馬術部の活動を
応援しています！

**スポーツ用品のご注文は
ぜひ、北大生協へ！
オーダーマーキングも承ります。**

スポーツ用品・オーダーマーキングのお申込は
北大生協購買部北郡店スポーツコーナーまで
TEL747-2181 北大内線5424



北海道大学生生活協同組合

〒060-0808 札幌市北区北8条西7丁目

代表電話746-6218 FAX746-2341 北大内線 3285

＜広告主への感謝の言葉＞

この度、平成17年度北海道大学馬術部部報発行に際し絶大なるご援助頂きました諸社・諸店に対し、厚く御礼申し上げますとともに諸社・諸店のご繁栄を心より祈り、ここに深く感謝致します。

編集後記

まず初めに、例年4月に発行しております部報が今年はこんなにも完成が遅れてしまったことを深くお詫びいたします。中には待ち侘びた方もいるかもしれません。本当に申し訳ありませんでした。

さて、平成17年度は北凌号の引退、高野文彰氏の全日本障害での5位入賞、八木正巳氏ご逝去、全日での前田兄&エルグレイ号の一走目の満点走行など、印象的な出来事が数多くあったように思います。それらが思い出としていつまでも皆さんの心の中に残るようなものにしたい、という思いで作成に取り組んできて完成した部報ですが、いかがだったでしょうか。ご意見等あればお聞かせ下さい。

また、原稿は3月までに回収したものであるため、馬匹などの内容に現在の状況と異なる点がいくつかあると思いますがご了承ください。

最後に、発行にあたりご協力してくださいました方々、本当にありがとうございました。

山川 倫明

山中 謙司

北海道大学馬術部部報

部 報 第51号

平成十八年八月 発行

編集者 北海道大学馬術部部報担当

山川 倫明
山中 謙司

印刷所 北大印刷

〒〇六〇・〇八〇八

札幌市北区北8条八丁目

クラーク会館1階

TEL (〇一一) 七四七・八八八六

FAX (〇一一) 七五七・七九七一

発行所 北海道大学馬術部

〒〇〇一・〇〇三三

札幌市北区北23条西十二丁目

TEL (〇一一) 七三七・一六二六

FAX (〇一一) 七三七・一六二六